（昭和五年五月二十四日第三種郵便物認可）　昭和十四年十月十五日　千曲時報　第百十五號　（一）

毎月一回十五日發行（定價一部五錢一年郵税共六十錢）

編輯兼發行人　長野縣上田市　小松忠一
發行所　長野縣上田市　千曲學校會
印刷人　長野縣上田市　中澤印刷
印刷所　長野縣上田市　中澤印刷所

織物消費税法に就て

杜宇生

筆者が過去何年か、税と共に暮し、税と苦樂を共にせし時代の記憶を辿りて、日支事變のもたらしたる織維工業界の推移を織物消費税法中に見出し、且つは同法の一般を同窓諸氏に紹介しようと思ふ。

消費税は其本質に於て消費者に税の轉化をもたらすもので、消費者は商品の價格に應じ其定められたる税率のもとに賦課されるものである。織物消費税に於ても其消費者は織物の種類により又品位に依り定められた標準に基づき消費者は價格の九分の負擔を余儀なくせしめられてゐる。試みに昨年度に於ける織物消費税徴收額を他の主要なる消費税と共に記せば左の如くである。

酒税	二八、〇八三、八二三
織物消費税	一三、〇五四、〇一八
砂糖消費税	一一、二三九、五〇六
取引所税	二、七四〇、〇四二
揮發油税	五三〇、六二五
清涼飲料税	四八三、六一八

（昭和十二年度調定税額、單位圓）

消費税の消費者に對する轉化はやがて斯業に擔る者に間接に其の影響をもたらすのは否めない事實であつて、同法の斯業に對する適用區分並びに同法に規定される税徴收上の取締は、直に斯業に影響することは容易に考へられる。爲政者が此點關心を示す所以であつて、一國工業行政の變遷は直に之等の關係する法律の改正を余儀なくせしめてゐる。

事變處理對策として擧げられる國際貸借の改善の線に沿つて、輸入織物原料の制限は直に「ス、フ」奬勵となり、之に附隨して消費税の免除の如き消費税の改正點も實に國策の根本に由來する。

筆者が在官當時は恰も「ス、フ」が時代の脚光を浴びて登場した頃で、織物消費税法にては、其原料、製造工程を考慮し所謂廣義の人造絹絲と見做し課税されたのであるが、讀者も想起される昭和十一年頃の國内に漲ぎる改新の氣運に、馬場藏相の税制改革中に企圖された織物消費税法改正法案中「ス、フ」ヲ用ヒタル織物ハ命令ヲ以テ定ムルモノニ付テハ消費税ヲ免除ス　と制定し國家非常時に順應し輸入織物原料の輸入吐絶を豫期し、ス、フ工業の發達を助長すべく消費税の免除の立案を計つた。而して内閣の更迭にも拘らず其儘結城藏相の時代になつても其方針に於いて變りなく、昭和十二年五月勅令第一六四號を以て同法施行規則第廿一條中第十一號として税法上の綿織物原料として指定され追加された。

然るに其後時局は益々緊迫して、國際貸借の見地より商工省は省令をもつて「綿製品、ステープル、フアイバー」混用規則を制定するに及び大藏省は之が從應策として、綿とス、フ及び麻との混紡糸中綿の五割を超ゆるものは織物消費税法第一條混書に該當するものと看做し、非課税織物原料と指定し、其上重量五割以下の人造絹絲と綿絲又は其他の綿絲と見做されたる混紡絲との交織物を綿織物と見做し非課税の取扱をなすに及んだ。

ところが、昭和十二年七月北支に端を發したる日支事變の進轉は之が取扱を更に强化せしめ、輸入制限、製造製限に迄及ぶに至り、本年臨時租税擔置法を改正して、非課税織物原料の綿絲と見做し非課税と決定し今日に至つたのである。最近數年の間に非常時態勢は持續せられ其間政策上種變遷を余儀なくせしめられたるが、織物消費税法の變遷も該工業政策の推移を語るものとして興味深きものがある。

該消費税法は、課税範圍、税率罰則に依り構成され、尚上記の如く、臨時租税擔置法中織物に關する部分があり、兩法に依る課税、非課税の境界を指示する條項は次の如くである。

第一條　織物ハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス但シ左ノ一號ニ該當スル織物ニ付テハ此限リニアラズ

（一）綿織物

（二）麻又ハ麻ト綿ト組成シ、其麻ノ單絲ガ英式番手四十二番ヲ超エザル織物

（三）經絲ニ綿絲ノミヲ用ヒ韋絲ニ左ニ掲グル絲ノミヲ用ヒタル織物但シ「パイル」組織ノモノヲ除ク

（イ）紡毛絲　（ロ）命令ヲ以テ紡毛絲ト看做タル絲

（ハ）紡毛絲及命令ヲ以テ紡毛絲ト看做シタル絲　（ニ）綿絲及（イ）（ロ）又ハ（ハ）ニ掲グル絲

前條ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿絲、絹紡紬絲、芭蕉絲其他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ヲ謂フ。

左記は織物消費税法の課税範圍であるが同法の施行規則に於て

第廿一條　織物消費税法第一條ノ二ノ規定ニ依リ綿織物ノ原料ヲ定ムルコト左ノ如シ

（一）黄麻（二）葛（三）麻（四）櫨（五）楮（六）鳳梨（七）科（八）竹（九）紙（十）檻樓（十一）ステプル、フアイバー

第二條ノ二　左ニ掲グル絲ハ、織物消費税法第一條第三號ノ規定ニヨリ紡毛絲ト看做ス

（一）綿毛混紡絲（二）毛麻混紡絲（三）麻綿毛混紡絲（四）ステープルフアイバート毛又麻トノ混紡絲（五）綿トステープルフアイバート毛又ハ麻ノ混紡絲

第廿二條　臨時租税擔置法に於いて

第廿一條　ステプル、フアイバー又ハ綿

蘭鈴る薫
生芝の緑

春……鈴蘭狩り
夏……ハイキング　キャンプ　避暑
冬……スキー

ハイキングコース、キャンプ場等は御問ひ合せ下さい

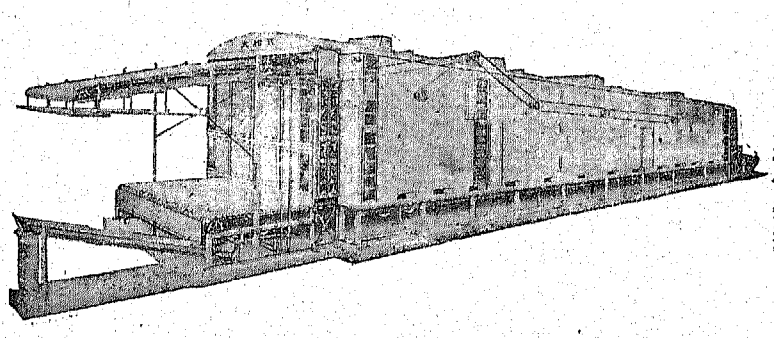
千曲會指定旅館

信越線上田驛前	上村館	電話上田344
長野縣菅平高原	菅平ホテル	電話菅平局呼出
長野縣菅平高原	鐵道省山の家	電話菅平局呼出

現代乾繭機界ノ王座

大和式自動輸送乾繭機

【各種型錄贈呈】



二五九九年代表型

製作發賣元
株式會社
大和三光商會
東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋（56）五三二〇番
〃　〃　五二〇〇番
〃　〃　一七四三番

營業課目
特許大和式自動輸送乾燥機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許滯川三光式乾燥裝置
特許やまトホイロ
特許サンコー式濾過浄水裝置
特許サンコー式廢湯吸熱器
特許サンコー式高壓ポンプ
特許サンコー式トラップ

ヲ用ヒタル絲ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ之ヲ織物消費税法第一條又ハ第一條ノ二ニ規定スル綿又ハ綿絲ト看做ス

麻ヲ用ヒタル絲ニシテ、命令ヲ以テ定ムルモノハ之ヲ織物消費税第一條ニ規定スル麻ト看做ス

第廿二條　人造絹絲ヲ用ヒタル織物ニシテ命令ヲ以ツテ定ムルモノハ織物消費税第一條ノ二ノ規定ニ拘ラズ之ヲ綿織物ト看做ス

臨時租税擔置法施行規則に於いて

第廿一條　臨時租税擔置法第廿一條第一項ノ規定ニヨリ左ニ掲グル絲ハ之ヲ織物消費税法第一條ノ二ニ規定スル綿又ハ綿絲ト見做ス

（一）ステープル、フアイバー絲

（二）綿トステープル、フアイバートノ混紡絲

（三）全重量百分中五〇以上ノ綿ト、ステープルフアイバート麻トノ混紡絲

第廿二條ノ二　臨時租税擔置法第廿二條第二項ノ規定ニヨリ全重量百分中五〇ヲ超ユル麻ト綿又ハステープルフアイバートノ混紡絲ハ之ヲ織物消費税法第一條ニ規定スル麻ト看做ス

第廿二條　臨時租税擔置法第廿二條ノ規定ニ掲グル絲ト人造絹絲トヲ以テ組織シ其人絹ノ重量ガ全重量百分中五〇ヲ超エザル織物ハ之ヲ綿織物ト看做ス

（一）綿絲　（二）全重量百分中五〇ヲ超ユル綿トステープル、フアイバー又ハ麻トノ混紡絲

織物消費税法の改革及び臨時租税擔置法中織物に關する部分の制定が、上述の如く「ス、フ」の取扱方にのみ限定されたのは、輸入織物原料たる綿、毛の代用品として、且つ税法上新繊維である點に起因し、今次事變に際し、其製品的價値はしばらく置き、其代用品としての役割が重大である事は、税法上より見て否めない事實であつて、爲政者の輸入原料節約に對する關心を察知せられるのである。

繊維工業の事變による影響は、之が一繊維に限るしのではないが、此處に同法の變遷を回觀する時、自ら斯業に關係する者の時局に協力する道の啓示を見出すであらう。

興亞青年勤勞報國隊報告

興亞青年勤勞報國隊に參加して

滿洲班　行元自忍

「本校隊員は此の間克く上官の命令に服從し、他校隊員に親和し、熱心に作業に從事し、疾病其他の事故一名もなく、十分勤勞報國隊の綱領に副ひ得たるものと思料せらる。此の惱苦に耐へ、缺乏を凌ぎ、汗と脂の訓練を通じて眞に大陸を体感したることに依り、今後大陸への關心は固より、自肅自戒、興風の實踐等に於て慥かに括目すべきものあるべく云々「これは先日ものした我輩の文部省への報告書の中の文句であるが、實際滿洲班に參加の本校學生諸君は本校の代表者として恥しからぬ立派な態度を示して呉れた。愛校心を狙つた所の隊の編成振りではあつたが、あの風土的○疫○癘の中で遺憾なく蠶專魂を發揮されたのには指導教官たる我輩も大いに肩身を廣くした次第である。兎まれ今はたゞ此の難關を突破して來たお互ひの健康を祝福したい氣持で一杯である。翼くは此の大陸の「體感」を十二分に將來に活かして貰ひたいものである。以下はたゞ日記帳かの抜き書きに過ぎない。

（一）　**內原訓練所**

「鍬を擔いだ小さな兵隊さん」これが滿蒙開拓青少年義勇軍を表現するに最も相應はしい言葉である。內原訓練所は此の兵隊さんを訓練するために、四十六町歩の敷地と百四町歩の實習地と一萬人を收容する三百十八棟の建物とを持つた東洋隨一の大訓練所である。十六歳から十九歳までの大陸開拓の意氣に燃える青少年が約二箇月間の訓練を受けて、此處から勇躍征途に上るのである。此の南洋の蕃舎見たいな奇妙な日輪兵舎で吾々も二週間の訓練を受けたのであるが、此處で見、聞き、感じたことを結論すれば、結局それは滿蒙開拓教育の成功といふことになるであらう。至れり盡せりの設備はさることゝ乍ら、その晴耕雨讀の規律正しい生活を通じて、實際に即した訓練と武士道的皇國精神の練成とが遺憾なく具現されてゐるのを見て、これは正しく現代教育の謎を說いたものと感じた。實家から遙々逢ひに來た父兄が、見違へる程眞黒に日焦けした凛刺たる軍隊式な我子を圍んで團欒してゐる麗しき面會所の情景の中に、知識よりも信仰を、理論よりも實踐を第一義とする內原式訓練の成功を認めないとすれば歪曲である。勇壯な喇叭鼓隊に送られて集立つ此の純眞な義勇少年の意氣こそ、確かに新東亞を双肩に擔つて起つものであると熟々感じ且つ訓へられた次第である。

（二）　**職場**

新潟から船で羅津へ三日。豆滿江を溯つて圖們。牡丹江から東へ折れて△△まで二日。此の△△の田舎驛の、丸番に、銀杏返に、島田に、白襷こそ一樣なれ、實に色とり〴〵の「國防婦人會」の歡迎陣。それは日本人への人懷つこさと云ふか、血の共感といふか、一種喩へ方なき國境情趣横溢の存在である。勿論牡丹江驛頭の嚴重な△△調べや其の後列車に乘り込んだ○○○○や其の沿線に點在する○○○○○○や、それにも增して列車の○○○○○などに依つて、吾々は大体吾々の通過地點の重大性を想像してはゐたのであつたが、此の△△驛頭の歡迎陣の氣魄には全く今迄と違つた國境人の「息吹き」をインスパイヤーされざるを得なかつたのである。日本女性の進出。此處ではそれは小△△が町名の變容を餘儀なくされた頃に始まるのであらうか。英遮、軍用トラックとマーチョの揭げる黃塵の中で蠅と馬と人とが卍巴となつて組打ちすると見る間に、道路と橋梁と家屋とが出來上つて行く此の國境町。僅か許りの日本人が容貌魁偉な山東苦力を驅使して○○○○に圍まれ、○○○の飛行機を仰ぎ乍ら、此の次には何の邊の國境で商賣を始めやうかと考へてゐる此のニンニクの街。これが又吾々報國隊員の職場である。

（三）　**飛行場建設**

鬱蒼？と茂る蓬や其他の雜草を刈り取つて地均しをやるのである。刈る方は腕利きの兵隊さんが研ぎ役を引受けてくれるので面白く運んで行くが、地均しの方は相當のものである。カン〳〵に固まつた大地はエンピや十字鍬を彈き返して全く受け附けない。百三十度の炎熱は容赦もなくヂリ〳〵と皮膚に泌み込んで痛い。所謂三寒四溫の風土と連日の勞働に疲れ切つた肉體である。泥と脂の眞黑な此の肉體が頑强なコンクリートのやうな大地と取組んで、默々として十字鍬の先に「興亞の火華」を散らすのである。陽落ちて滿洲特有の白夜の序幕に、疲れ切つた肉體を引曳つて○○○歸り行く鍬の戰士、驚いて亂れ飛び立つ夥しき鴉の群、あとには月淡素く冲天に霞んで、月見草と桔梗とが邊り一面に咲きこぼれてゐる。文字通り堅忍持久の三週。斯くて見事な飛行場が完成された。大体○機編隊なら樂に下りられるといふ。

（四）　**トーチカ構築**

トーチカを火點と譯し、特別な火點といふ意味で特火點と呼ぶなどといふことは常識であらうが、それの構造、その構築費用や勞力等等に就ては云はぬが花であり、又何のために吾々が之に參加したかなどと問ふ方が野暮である。午前四時起床、朝靄を衝いてトラックは凸凹の激しい山路を疾驅すること一時間。吾々のトーチカはその蛇腹を見せてゐる。兵隊○○、苦力○、學生○○の編隊である。云ふ迄もなく工兵の作業は其自身が戰鬪であり、職場は其儘に戰場である。玆に嚴格な作業軍規がある。命令一下、セメント、砂利、石、水が規律正しく混合されて、蛇腹は次第に埋められて行くのであるが、そんなことにお構ひないのは愛すべき苦力諸君である。ニンニクのおくびを出し乍ら、實に漫々的、に如何にも「支那式養生訓」の實踐家らしく、體力の消耗を惜むかの如き活動振りである。「ニーヤ快々的（カイカイテー）」の叱聲と譯の解らぬ滿語とが鐵板のセメントを混ぜる音に反響を起して、忽ちに喧噪の修羅場を出現する。學生諸君は固より兵隊の勞働力には及ぶべくもないが、谷川から水を運び、セメントを擔ぎ、土砂を背負つて國境建設の熱氣に爛られ乍ら、驚嘆すべき持久力を發揮する。午後八時半、完成の喜びは瞬間にして今迄の勞苦をケシ飛ばして了ふのである。蜻蛉返りするトラックに蕃聲高らかに軍歌を奏しつゝ歸途に就けば、圓鏡已に冲天に懸つて夜營の陣馬遠くいななき、苦力小屋の蚊遣りの煙は△河の野廣く我等の行手を遮るのである。トーチカとの組打ち十三時間。それはセメントの凝裂時間が倖にも吾々に與へて呉れた尊き試練であり、体驗である。

（五）　**苦力**

町はずれの砂丘の上にアンペラの苦力小屋が並んでゐる。蒸し返るイキレの中で、ワン〳〵呻ひ駈ぐ蠅群も何のその平然と枕を並べて今や苦力諸君は午睡の眞最中である。枕頭には七つ道具が取り散らされて、妻もなければ子も持たぬ天蓋孤獨の氣安さが漂ふてゐる。小麥と鹽と野菜と煙草と、此の一日五十錢の生活程度で一圓二三十錢も稼げば貯蓄も出來るだらうと考へては早計である。賄博と阿片と風呂と其他の享樂とが金錢を手にした彼等を完全に占領する。金のある者が働くといふことは彼等の通念に反する。金のなくなる迄は遊んで暮すのである。この故に大事な仕事に苦力諸君が參加する場合には、仕事の完了する迄は決して貫錢を支拂はないのが定跡である。年々山東苦力が百五十万も滿洲に流れ込んで來ても、殊勝な心懸の者で精々四五十圓を持ち歸るに過ぎぬのもこのためだと聞かされた。吾々が〇〇〇〇作業で接した苦力諸君の中には老幼取り混ぜて色々の性格の持主が居たが、結局は愛すべき漫々的存在といふのが吾等の受けた印象であつた。あの支那式養生訓の實踐家も一度請負式な支拂に關する限り實に熱情的なものであつて、全く癡食を排してその偉大なる勞働力を發揮するのである。「△△に一杯土砂三十錢」などといふ場合ともなれば、晝食の時間さへ休まずに、例の饅頭（マントウ）を噛り乍ら物凄き熱で運び續ける。實に現金なものである。吾々は△△への途中で鐵道の沿線に夜つぴいて働いてゐる山東の勇者を見た。列車の窓から辨當箱の空でも拋ることなら、何もかも放り出して之に向つて突進し來る苦力の勇敢さに舌を捲いた。少年苦力や滿鮮人小學校の生徒諸君とも度々話をし、質問を試みたりもした。彼等は慥かに日本人族協和の王道樂土にも、民族的差別感を超えた親和の眞の積極的活動が彼等の內面から活らき出して來る迄には尙前途○年の星霜を閲せねばならぬであらう。淨き愛の光の中に、隨喜歡身の活動が顯露されて、所謂モーレスの差異を乘せた儘一在的なるものへの「むすび」が實現されること、これは吾々の永へに渝らぬ彼等への禱りである。兎まれ先づ彼等の衣食住の隅々にまで卓き一視同仁の惠みが浸み込まされること、これこそは方に東亞協同體の第一歩であらう。

（六）　**國境線**　（省略）

附記

歸途、哈爾賓、新京、旅順、大連を見學し特に新京、旅順では深い感銘を受けたので省略するが、既にお馴染の土地である。また哈爾賓では本校卒業生淺川、關、土屋の三君に逢つて色々御話を伺ふことが出來た。淺川、關兩君は目下軍屬として某重要任務に專日なき御奮鬪中である。泥と脂の眞黑な肉體に鬱つて遺進中の教育行程に第三國民中等學校に五族協和の願ひを籠めて、土屋君は傳つて御健鬪中であられる。玆に衷心から三君の御健鬪をお禱りする次第である。

興亞青年勤勞報國隊參加日程

北支班

七月五日（學生は七月十二日）內原滿蒙開拓青少年義勇軍訓練所に入所以來八月二十七日歸校解散までの日程を略記に致します。

日程

七月五日　內原の滿蒙青少年義勇軍訓練所入所。
內地訓練を受く隊の編成、現地事情講話教練、作業、行軍など主に日本精神の練成なり。

七月十八日　本日にて內地訓練を終る。

七月十九日　內原出發、東京にての行事を終り、神戸に向ふ。

七月二十日　午後二時乘船、本國の土と離れ瀨戸に乘り出す。

七月廿一日　航海中。

七月廿二日　航海中。

七月廿三日　航海中。

七月廿四日　白河河口に到着、滿潮を待つ。

七月廿五日　塘沽上陸。天津、楊村、郎坊、黃村、豐臺の新戰場の驛を通過一路北京に向ふ。午後九時頃北京清華驛に着く。清華驛に着きし頃雲低く、ポツリ〳〵雨降り來る。清華學校附近通過は猛雨となり背中を流るゝ生溫き雨にて氣持もふさぐ、皇軍もかくやと思ひを戰場に致して元氣出る。かくして西苑兵舍に入る。

七月廿六日　昨夜の雨にて增水、兵舍を一歩も出られぬ。清華學校にて訓示及最近の支那事情に就き講話。

七月廿七日　休養、前日までの衣服乾燥や洗ひものなどなし、一日休養す。

七月廿八日　〇〇飛行場に於て杉山大將の閲兵分列を受く。

七月廿九日　勤勞作業、歸途、滿壽山壁に所々に支那軍散兵壕あるを發見す。機關銃座など其の儘になり居れり。

七月三十日　勤勞作業。前日と同じ作業暑さ前日より烈し。

七月卅一日　戰蹟見學。芦溝橋、一文字山、苑平縣城。

八月一日　北京史蹟見學。景山、孔子廟、紫金城、天壇等。

八月二日　勤勞作業。前日に同じ。

八月三日　勤勞作業。前日までの作業の整理をなす。作業終了式離別式。

八月四日　午前面會を許さる。然し面會人なし。一線勤務に出發準備、半日を使用す。午後滿壽山に於て支那學生と交歡會をなす。新政府首席、教育總長出席す。滿壽山見學。

八月五日　西苑兵舍出發、濟南に向ふ汽車輸送により午後八時半濟南驛に着す。後藤少佐（通信隊長、現在東京に歸り居られる由）に會す。自動車にて濟南中學に到着宿す。

八月六日　尾高司令官に申告す。司令官閣下より訓示を受く。參謀より山東省の事情の講話特務機關長の講話ありし日の午後濟南市內見學。忠魂殿參拜、山東省長訪問、濟南城戰蹟見學、趵突泉見學本日より指導將校として海洲より來られた小田明治少尉配屬せらる。

八月七日　濟南農事試驗場に配屬勤勞をなす。試驗場にて北支、山東省の產業に就き講話、農場見學にて一日終る。

八月八日　農事試驗場にて勤勞。煙草葉採取、絲にてつなぎ乾燥場に入れる。

八月九日　農事試驗場にて勤勞。綿畑に行き溝を掘り、土手を作る。

八月十日　農事試驗場にて勤勞。雜穀調査。午後四時茶話會、方面隊長入江大佐來場。

八月十一日　濟南驛午前八時十分發、兗州着十二時半。孔子廟、孔子の墓見學、兗州發午後六時半、泰安に宿營す。

八月十二日　泰山登山、泰安宿營、支那風呂に入る。

八月十三日　泰安驛發午前四時、張店に向ふ。濟南にて坊子に行く命を受く、坊子着秋山閣下の指揮下に入る。ガソリンカーにて戰跡見學（鮑營）當時の分隊長、小隊長等來りて實戰の話を聞く。坊子宿營、食後支那兒童の支那宣撫劇を見る。

八月十四日　濰縣城見學。城門上にて附近の產業、歷史、戰史など講話を聞く、青年訓練所見學。裝行列車にて張店に來り、鉾田隊長の指揮下に入る。鉾田隊長より附近の狀況のお話を聞く、張店宿營本日より各學校別に第一線勤努に就く、我校は北大、京大と行動を共にす。

八月十五日　張店へ尾高、秋山兩閣下見えらる。日語學校見學、張店製絲工場見學（男工七百人）、金嶺鎭青年訓練所見學後、京大金嶺、北大張店上田蠶絲茅庄各鐵道警備の配置につく、當校は裝行列車にて張店を去る約三里の地點茅庄に至り小隊長に申告、警備に就く。雨一夜中降る。

八月十六日　茅庄にて朝食、裝行列車にて張店着午前服など乾かし休養、午後博山鐵道溜川炭鑛見學。裝甲列車にて途中裝甲列車の說明を聞く。捕虜を見る（七人の八路軍と十四名の鐵道破壞の二組裝甲列車にて周村に至り加藤中隊長の說明にて織物會社、製粉會社其他場內外の事情見學。

八月十七日　午前鉾田隊長自ら衞固鎭見學に引卒せらる。自動車にて雨上りにて自動車進まず途中にて引返す。道路破壞狀況の見學は出來得たり。支那農家及支那中流家庭の狀況見學す。晝食を隊長と共にす。午後普通列車にて濟南に向ふ。各校別れ〳〵の一線勤務の話出て面白し上知校はいゝ體驗をしたと思ひき。濟南中學に宿營す

八月十八日　濟南にて坊子に行く命を受く、坊子着秋山閣下の指揮下に入る。ガソリンカーにて戰跡見學（鮑營）當時の分隊長、小隊長等來りて實戰の話を聞く。坊子宿營、食後支那兒童の支那宣撫劇を見る。

八月十九日　濰縣城見學。城門上にて附近の產業、歷史、戰史など講話を聞く、青年訓練所見學。裝行列車にて張店に來り、鉾田隊長の指揮下に入る。鉾田隊長より附近の狀況のお話を聞く、張店宿營本日より各學校別に第一線勤努に就く、我校は北大、京大と行動を共にす。

前農林省蠶業課長　明石弘著　◇最新刊◇

近代蠶絲業發達史

菊判洋布函入上製紙數六三八頁　定價五圓五十錢　送料書留三十三錢

我が國の蠶絲業は明治中葉以後文字通り飛躍的發展を遂げ、東亞の斯界に君臨し、世界の市場に覇を唱ふるに至つた。然し其の間幾多の波瀾が繰返され、研鑽の苦辛が積まれて來た。茲を以て、我が蠶絲業を正しく認識し、堅實なる運營を企劃し、或は將來の發展を圖らんとするものは、須らく先づ其の推移の跡を究むべきで、當に本書こそ之が無二の典據である。

則ち本書は其全生涯を本邦蠶絲界に委ね、具さに其の歷史を體驗して、あらゆる事象に通曉せられる著者が、斯界の爲に寄せられた尊き體驗の記錄で、明治中葉以後、近時に於ける蠶絲業の浮沈み、關係者の搖まざる努力、學者の研究、當局の施設、輿論の動向等々、蠶絲業發達の道程と之に關する政策を最も如實に描き出された空前不磨の快著である。

蠶絲業關係の各位には、是非御一讀を切望して止まない。

最近製絲學　上卷　三谷徹著　菊判六七〇頁　定價五〇〇　送料三〇

最近製絲學　中卷　三谷徹著　菊判九八〇頁　定價六、五〇　送料四〇

改訂製絲能率論　東京高等蠶絲教授　中川房吉著　菊判四九〇頁　定價四、〇〇　送料三〇

絲格向上製絲法　東京高等蠶絲教授　中川房吉著　菊判二九〇頁　定價三、〇〇　送料三〇

製絲學新講　前長野工試技師　田村熊次郎著　菊判五五〇頁　定價四、五〇　送料三〇

乾燥論　東京高等蠶絲教授　鈴木三郎著　菊判五四六頁　定價六、〇〇　送料三〇

煮繭論　上田蠶絲專門助教授　荻原清治著　菊判三三〇頁　定價三、〇〇　送料二〇

製絲現業便覽　小山清著　袖珍一八〇頁　定價一、〇〇　送料六〇

製絲原料便覽　小山清著　袖珍一九〇頁　定價一、二〇　送料六〇

世界纖維界と蠶絲　農學士　今村省三著　菊判三六三頁　定價三、二〇　送料三〇

發兌　東京市神田區錦町一　振替東京一三一九〇　明文堂　圖書目錄進呈

八月二十日　濟南公會堂にて茶話會。濟南中學にて尾高閣下に離別の申告。

八月廿一日　濟南發午前八時四十五分にて青島に向ふ。金嶺鎮、張店、周村、茅庄、濰縣、坊子など顚見知りの人達に送られ、一路青島市禮堂に宿營す。

八月廿二日　青島忠魂碑、青島神社參拜公園、砲臺など見學。午後一時青島港出帆す。

八月廿三日　航海中。

八月廿四日　航海中。

八月廿五日　午前九時二十五分和田沖にて防疫、十時四十五分終りて神戸港内に入る。明日の上陸を待つ。

八月廿六日　午前八時上陸感激々々、方面隊旗を先頭に湊川神社に至り報告。戰病死隊員に對し、默禱、解隊式擧行後解散。午後自由行動、伸びた翼等落し、午後五時十七分三ノ宮發にて全員歸校の途に着く。

八月廿七日　午前六時五十九分上田驛に着く。大瀧先生始め職員多數に出迎へられ、驛頭にて報告を終へ、學校にて一同朝食を取り解散す。

興亞青年勤勞報國隊
北支班報告記

北支班　伊藤嘉三郎（蠶三）

東亞では聖戰正に三歲既に敵國要城の大半を掩有せる數十百万の皇軍は、更に進攻の鋭鋒を磨くと共に頑迷なる共匪黨軍の討伐、治安の肅正に、將又諸般の建設に日夜不斷の努力を傾注し到る所皇軍の眞姿を示して至大の成果を擧げつゝあり、銃後國民、又『一億一心體當り』の氣概を以て職務に精勵しつゝある時、眼を一度び歐洲に轉ずるならば、其處には持たざる國と持てる國、民主主義國家と全體主義國家の苛酷な鬪爭が演ぜられ正に世界は戰亂の巷と化さんとしつゝある秋！世界に大矛盾を排除すべき轉換期が訪れ、皇國日本が空前の大變展擴服の秋！私は學生の大陸認識と、實踐的奉公を以て目的とする青年勤勞報國隊の一員として北支建設の實情を見聞すると共に奉仕に建設の汗を流して參りました。大陸の生活、それは炎暑、餓渴、疲勞に思考力、記憶力減退した朦朧とせる生活であつたが、私の腦裡に强く燒つけられた印象や、兎もすれば忘れ勝ちな淡い記憶を辿つて感想を記す。

——◇——

七月廿日午後二時出帆！茨城縣内原滿蒙青少年義勇軍訓練所にて準備訓練を受けた私達は此の日、神戸埠頭に向ひ步武堂々と三宮驛よりメインストリートを行軍し直に御用船に上船、午後二時甲板上に集合出發式を擧行しました。宮城遙拜、國歌合唱、血沸き肉躍る數百の學徒と歡送の群との嚴肅な唱聲は水面を渡つて港の隅々迄響き渡り、肺腑をつく樣な汽笛三聲、萬歲の叫び、勇壯な愛國行進曲のメロデーが相和し轟々と乾坤も響めば、船は靜かに祖國を離る。萬歲／／／／…感極る時人間は理性を失ふ、狂人の樣な兒の樣船側にもたれて感激に振震へ、瞳を曇らせ乍ら萬歲を叫び續けました。此の感激、暴支膺懲に旅立ちし皇軍の等しく侵た、此の感激、懷しの祖國に訣別を告げ戰地に旅立つ人のみ味ひ得る感激である。七月廿五日、黃水、綠岸、船は靜かに白何の溯航を始めた。山又山の信州に生れ信州に育つた私達は涯しなき綠の地平線を眺めて思はず『廣いなあ！』と驚嘆の一聲を漏した。今此の廣大無邊な大陸で未だ東洋史に嘗つてなき血と汗の建設が我が同胞の手に依りて實行されつゝあると考へた時感概無量だつた。坦々たる平原を縫ふて流るゝ白河を船は尙上る。無數のジャンクを見下し、巨大な貯炭場の石炭の山を眺め、英國の北支投資の膨大さを如實に物語る英國の建物（屋根壁に英國旗が鮮かに印されて居る）に憎惡の眼を向け乍ら、陽に燒け塵に塗れ乞食の樣な半裸體の子供の群を眺めて塘沽に上陸し直ちに北京に向つた。

北京郊外〇〇兵舍に舍營してた私達は、景山、天壇孔子廟に遊び又今は草茂す紫禁城の史蹟を訪ねて清朝華かなりし昔日を偲び、國破山河在、城春草木深と吟ぜし杜甫の詩を嚼む等々思ひ出の數々の中最も感銘深きは蘆溝橋の戰蹟視察と勤勞奉仕なり。

七月廿九日、三時半起床五時三里距てた〇〇建設地に向つて私達は前進しました。土塀に圍まれた部落内の支那犬の遠吠えを聞き乍ら或る時は高粱畑を行軍して行きました。陽光が東雲を破つて大陸の朝を告げると水銀柱は八十度、百度、百四十度と鰻上りに昇り到着する頃は上膊迄ビショ濡れになれり。小憩の後、私達は始めて黃ろい大陸の土に親しみました。ギラ／／輝く太陽は容赦なく照りつけ流汗如瀧恰もセイロウにて蒸さるゝ心地だつた北支では如何に渴しても水を飲用する事は出來ない（井水は極めて硬度が高く飲用すると猛烈なる下痢を誘發するから）必ず一度煮沸したる後飲用しなければならぬから一本の水筒にて一日を過す樣な事も度々で將兵の辛勞を具に體驗する事が出來た。我等は千辛万苦の實踐の中にも、振下す一鍬一鍬に流下する一滴一滴の汗に東亞の礎が礎かれ、一億同胞の血と汗によりて東亞の建設が完成されるのだと信じた時、死線を越へた苦しみの中に勤勞の喜びと、日本人としての使命に生きる感激に侵つた。

此の喜びと感激の中に仕事は捗り午後四時半歸途についた。四日間の理論と抽象を超越した實踐の中に喜びと感激を見出し得た事は生涯忘れる事の出來ない貴い收穫であつた。八月六日古雅な古都、城郊の街北京を震動激して貨物列車にて去りて濟南に向ふ。万里長城と共に支那の歷史的二大工事として名を世界に誦したる山本部隊の將兵の一部にも相見えた。大運河の凧影を後にし乍ら汽車は中原を蕩地に走る、土の小家が流れ流れて『百年河清を俟つ』の古言で知られた。餘りにも有名な大黃河の鐵橋を過ぎて濟南に着いたのは七日の夕刻であつた。

濟南では我等は戰蹟（濟南事變）を見學し護國の英靈を弔ひ、勤勞奉仕に服した八月十三日濟南を發つて第一線に向ふ。孔子生誕の地曲阜を訪ね天下名山第一と支那人の自稱する泰山に登り鄕土部隊たる山本部隊の將兵の一部にも相見えた。八月十六日午後八時我等上田驛一行十名は膠濟線芽莊と云ふ小驛を出發しよぼ降る霖雨の中で鐵道警備の任に當つた現在鐵道沿線三里以内の農村は鐵路愛護村たるものを結成し日夜間斷なく百米距に警備に當り別に皇軍は最少員數で最大距離の鐵道を警備して居ります。雨に叩かれ乍ら鳴く夏蟲の聲一入身に泌みて、二條の鐵路は冷く吾等が銃劍は血を如呼支那人の暗いカンテラに閃き、雨は被服を通して背中を流れ、實彈は常より重く感ぜられた。我等は鐵路の異常を檢し乍ら蔭から今にも銃聲が殷々と響き、便衣を纏ふた支那兵が躍り出る樣な戰慄を背條に感じた。斯うして將兵は數粁距てた小さな土の家の中で毎夜徹夜の駐屯警備をされるのだ。娛樂機關皆無の異鄕で内地では到底想像も及ばぬ勞苦を只管皇國の爲に捧げておくれる兵隊さんに、我等は自ら頭が下つた。第一線將兵への感謝の生活！ソレが銃後國民の最も肝要な事柄だ。全國民が感謝の生活を送る時、感謝は奉仕となつて形の上に顯れ東亞の建設により容易に完成される事だらう。今もあの蜿蜒と連る鐵路は日支兩國人の崇高なる自己犧牲によりて事無きを得てゐる事ぜう。

八月十六日、僑濃では藪入りで人々は天プラに舌鼓を打つてゐる頃、我等は支那小學校を見學に行つた。日本の子供に似通つた無邪氣な生徒（大部分が男兒）は廻らぬ口を動かして眞摯な態度で熱心に勉强してゐた。第一課は國旗と云ふ題で「此ハ何處ノ國ノ國旗デスカ」「此ハ支那ノ國旗デス赤黃藍白黑皆デ五色デス」「ソウデス此ノ五色旗ノ下ニ王道樂土ガ築カレマス」「愉快デスネ、愉快デスネ」此の小文は日章旗に全々一言も觸れてゐない云ふ迄もなく少年の敎育は武力戰に大勝した日本が思想戰に勝つや否や、精神的に感化せしむるや否やの重大問題である。我等は讀本の卷頭に優渥（ユーヒア）なる八紘一宇の大御心の下に理想鄕を建設してやると云ふ意欄を判然と掘んで日本民族は道義に生きてゐるのだ！道に循ふもの必ず循はざるものに勝つと云ふ信念を强くし非常に愉快だつた。

——◇——

斯うして私達は無二の体驗を土產に、躍進日本の偉大なる姿に驚愕し乍ら東亞新秩序の建設が日滿支三國民の共同提携によりて完成され平和明朗北支の出現を確信し、大陸に未練を殘しつゝ再度の訪れを約して八月廿二日青島を出帆した。

八月廿六日、文明の光輝き、樹木鬱蒼と茂る美しき懷しの祖國の芳しい土の香を嗅ぎ乍ら神戸に感激の第一步を踏占めた。大地と肉體の觸れる音、血沸き肉躍らしめる萬歲の響、ジーンと込み上げて來る歡喜の中に日本國體の尊嚴さと帝國臣民として生を享けた幸福感が犇々と心に迫り感慨無量だつた。此の感激此の喜びは恐らく如何なる文才家と雖も之を文字に表し如何なる雄辯家と雖も之を聽衆の前に表示する事は困難であらう。暴支膺懲の千辛萬苦の幾星霜を大陸に送り歸還せらるゝ將卒の感激は果して如何でありませう。

感謝の生活！私達は過去の生活を省てより一層の緊張と改善の必要を痛切に感ずると共に現代社會生活の一部にも改善のメスが加へらるゝ必要があるのではないかとの疑ひを抱いた。

皆さん常に戰地の兵士に感謝の毎日を送り第一線將兵の心を心として日本民族に課せられたる歷史的大事業東亞新秩序の建設に擧つて驀進致しませう。

最後に廣漠たる北支に、憐れな盟邦、支那人の上に一日も早く平和明朗の理想鄕の訪れん事を祈り乍ら筆を擱く。

（稔りの秋の夕に記す）

滿洲建設奉仕隊生活斷片

滿洲班　村澤　巧（蠶三）

七月〇〇日　晴

父よ！　母よ！　今朝無事に綏陽に着いた。新潟で各種團體の盛な見送りを受け感激に咽んだ若人が出帆以來何日の夢を結んだ事だらうか。內原出發の際、荒木文部大臣より、

「諸君！今回の壯擧の成否は、近き將來に於ける日本の新東亞建設指導の成否に關るものであります。この點に鑑み、よく此の大事業の遂行に專念せられたし」と。一言一句肺腑を衝き、いやが上に血潮の膨湃とするを禁じ得ませんでした。

昨夕は牡丹江に寄つた。町の人口十二萬、日本人建設の新興の都市である。夕食を終つて街を東から西にかけて見物した。珍しいのは滿人街である。

高粱や玉蜀黍を石臼で挽いて粉にしたものを食つて居た。衣服は目立つて藍一色の原色を引づるやうに着てゐた。

店も、青に赤を濃厚に塗布してあつて私達には何故こんな汚ない飾をするのか了解に苦しむものが多かつた。道路にはしつきりなしに合乘車が走つてゆく。辻にはお爺いさんが煙草や粟を賣つてゐる。仕事歸りの苦力が喧騷な聲と足音を立てゝ何人も通つた。

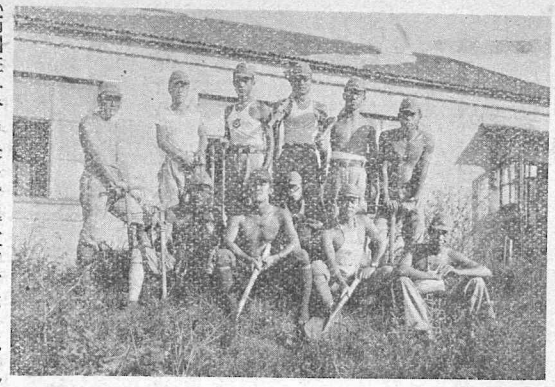
牡丹江を發つ時に、實踐部長の挨拶があつた。「今日、諸君の滿洲建設の一助は、新東亞建設參加の一大資格である。

諸君はよく滿支鮮人に交り、事情を知り融和を計るやう心掛けなければならない。」

×　×

午後八時、汽車は今「白夜」の高原を國境へ向つて驀進してゐる。ほのかに浮び上つた月影に、かきつばた、桔梗の秋草の可憐な姿が「風雲急」の眞中に、ゆとりを見出さして呉れるから嬉しい。

靜寂な夜！　遠くに光る赤と青の信號燈のみがぢつと鐵路の二條を見守つてゐる。



（滿洲班一行中央ハ指導教官行元自忍氏）

×　×

今朝は早くから目を覺した。朝霧が立ち込めてゐる。綏陽で朝食となる。

此處の國防婦人會がお茶や、辨當をサービスして呉れる。私達はこゝにも、日本人の進出的活動なものを強く感じ、嶮のあつくなるものを見た。私達は此處で降りて、更に行く友隊を祈りの中に見送つた。

七月〇〇日　晴

弟よ！　私達の生活には、まだ〳〵緊張の足りないものを見出しはしないだらうか。朝五時に起きる。私達は東天はるかに宮城を遙拜する。次で中隊長の綱領復唱がある。

「我等勤勞報國隊は皇祖の神勅を奉じ協心戮力身を挺して東亞の天業に遂進し、神明に誓つて、天皇陛下の大御心に沿ひ奉らん事を期す。」

了つて體操がある。新鮮な空氣を振はせる度に、限りなく爽やかな大氣が頰に觸れる。足をふみしめて、胸一杯に地の氣を吸ひ、伸びよう〳〵とする。

午後七時、作業が始る。兵隊さん達と共に出て、大地の中央に立つてツルハシを下す。朝露が散れて赤紫綠の玉に輝く。

私達は大地に汗を以つてする體驗を通して現地を認識し、兵隊さん達の血と汗の建設に感謝し――私達はこれを生活に織込んで、今、祖國が最も要求する眞面目な、熱のある、勤勉な人間とならなくてはいけないのである。

×　×

午後から建國大學、天澤教授の「內地移民の現狀に就いて」の講話があつた。

「移民政策」は滿洲が他の北邊振興計畫、產業五ケ年計畫と共に三大國策として着々實行してゐるものであつて、開拓國策こそは、滿洲國が八紘一宇の建國精神に基き五族協和、日滿不可分關係の實現を理想とするものであつて、此の理想は、思想堅實身體强建なる日本農民が勤勞奉公四隣に範を示し、よく滿洲國民の中堅となり、土に根ざす生活を以て始めて之れが實現を見るものである。滿洲農業開拓移民の重大性はこの使命に存する。

滿洲國が二十ケ年間に百萬戶五百萬人の移民を待つ計劃の目的は、この大量の移動により人口過剩の日本農村問題を解決し、その優秀な技術を以て滿洲農業開發に寄與せんとするのである。

×　×

私達は勿論そこに或る撞着を感ずるのではあるが、私達が滿洲移民に期待するものは、彼等が苦力を酷使するのを覺へたり、內地農村の或る特權階級の如き態度を見る事ではなくして、もつと、大地に培はれた、堅實な姿――思想を見せてもらひたかつたのである。今事變に入つて移民は減少するといふ。憂ふべき事だ。私達は、內地農村の生產機構の改善によつて移民を送らなければならない。

×　×

午後八時點呼、點呼後、上蠶生のコンパが行はれた。「移民國策の將來」「農村問題」を語り、若人達は興奮して消燈ラッパの鳴つたのも氣が付かなかつた。

柔道部全國制覇を顧みて

部員一同

註　九月十四、五、六日に亘つて開催された全國高工柔道大會に母校柔導部が始めて參加し、一舉にして優勝を獲得した事は同窓各位も己に新聞紙上にて御存じの事と思ふ。母校の名聲を擧げたこの制覇は勿論選手諸君の氣慨と努力に外ならぬも、東京を始め各地の同窓生が非常なる力となつたと言ふ。此所に部員一同は熱戰の模樣を記し聲援の御禮にかえられたのである。

――編輯室――

凡そ一事の成るのは一時のものではない。依つて來る源泉があり、永年の蓄積された力が具体的事象として實現するのではあるまいか。

名部長岡先生の輩下にあつて以來雌伏數星霜。人は變れども傳統の精神は渝らず必ず中原の鹿を得んとの氣慨を以つて今に至つた。

四月下旬東部日本高農蠶大會の餘勢を驅つて今年こそはの意氣物凄く部長も、師範も亦コーチャーも、先輩も部員も混然一体になり傍目もふらず努力に續くに努力を以つて血も肉も捧げて來たのではあるが必ず優勝するとの自信はなかつたのである。

夏酣の七月十二日出發を前にして挨拶に廻つた。井上校長の激勵の言葉を戴き感激の醒めぬ一同針塚前校長の御前に整列。熱と力と精神の充溢した心からの御勵辭は舌端火を吐き滔々として部史を說き社會を論じ、或は北條時宗の古事を御引例になり十有數分に亘つた。一同全身を震はし、全血液を逆流させて必勝を眉宇に漲らして部屋を出た。

無事上野驛につけばホームには唐木田氏、淸水先生、土屋兄が御迎に來て居られ直ちに蠶絲會館の歡迎會場に御案內下された。多忙中にも拘らず多數先輩各位の御出席になる部屋に案內されて非常に御馳走になり、激勵の御言葉を戴き且つは滋養料として金子五十圓を頂戴した時には負けられぬぞと判然り意識し、勝たうと決心した。

工大主催の歡迎會に於ては總て型通りに運んだが此の時我々は或は勝てるかと思つたがそれも通魔の樣に過ぎて行つた。十三日夜明日の試合を控えて皆陽氣に騷いで居たが薄暗い電燈の下に集つて必勝を誓ひ選手發表を行つた時は悲壯な劇的な感懷を如實に體驗させられた。

明ければ十四日本年度大會の第一試合を承つた。奮鬪力戰空しからず樂勝。

早速電報を打ち宿屋に引あげる。翌日十五日も亦樂勝。勝つて兜の緖を締めなければならないと思つて居る宿所へ激勵電報が舞ひ込む。前校長、現校長の長文な電報を始め全國各地よりの電報は皆我等の心を鞭つた。勝たずばなるまい。

勝たねば再び上田の土を踏む事が出來ぬと先輩、淸水コーチャーを中に協議する事深更に及ぶ。明日の決戰を控えて、選手一同益々元氣なり。併し氣候の相異風土の變化に依り下痢をする者多く內心に責任を感じて明日の試合優勝を神かけて祈る。昨日も亦今日も東京在住の先輩多數職を休み、暑さを嫌はず邊在する大岡山原頭に押かけて熱心に應援して下さる。負けられぬ。負けられぬと思ひ乍ら寢に就く。

明くれば十六日、宿敵桐生との對戰。出發に際しても針塚先生より特に此の戰に就いて御言葉を賜り、歡迎會に於ては亦先輩各位より此の一戰に就いての歷史を聞き一同眦を決して打倒を誓ひ合つた此の一戰。天氣晴朗にして風なく肌を掠める風も殺氣を含んで蒸暑い。來るものは來た。一同元氣。

此の日　恰も日曜に當り東京在住の先輩多勢御聲援に來て下さる。

九時試合開始。各人の意氣物凄く此處に桐生も敗退す。一同直ちに宿所に引あげて疲勞回復を試みる。次の相手は三年連勝の日大軍而も今日は一回の試合もせず英氣を蓄えた精鋭。一同午睡も取らず光輩各位に取捲かれつゝ淸水先生を中に協議數十分。オーダー決定して次に備える。悲愴な雰圍氣に包まれて快活な我等が選手の誰も彼もが眠りもせずに時を待つ。オーダー交還の時は來た。大岡山原頭風凪いで一陣の殺氣面を掠めて西北に去る。堂々の我が入場に續いて巨軀揃ひの敵も青白い頰に決戰への覺悟を忍ばせて入場すれば戰前既に嵐を呼び、雲を起して會場の觀衆固睡を飲めば飯塚審判長嚴然たる風丰にて道場の中央に立つ。

試合開始の聲と共に先鋒金子滿場注視の間に立ち上る。一戰は一戰と火を吹きを迸らせて先輩の顏も一般觀衆を魅了された惡魔の樣に形相物凄く喰込む樣に見入る。巨軀と度胸を利して敵は華かな攻勢を悔爽的な態度に出るを味方の戰士皆落着きと堂々たる態度に終始する。

後半愈々試合は血を流し、肉を削つての亂戰、亂鬪。負越の敵は死物狂ひの攻擊に敵の觀衆も味方の先輩も試合そのものゝ中に浸り、選手そのものになり切つて居る。三將、副將、何れに勝利の榮冠は輝くか全く不明。

敵の副將中野三段我等が主將相澤四段に敗退すれば味方の應援吻と一息する。敵の應援憂色を面に現し彼等の大將松永三段に必死の聲援を送る。敵將松永五尺九寸二十三貫の巨軀を提げて悠然と現る相澤攻めれば松永受け、松永掛ければ、相澤外し虛々實々。猛鬪十二分副將中野との戰に疲れたかホーブ相澤此處に殘れしは殘念。大將瀧澤猛然決意も固く其の偉軀を運べば敵も味方も聲なく息を呑む。

激鬪、死鬪、肉と肉、精神と精神の爭鬪は見守る人の手に汗を握らせ、背に脇に冷汗を流す。ワーと云ふ歡聲に敵將松永の體は疊に喰入り……。

味方の先生も、選手も、應援の先輩も皆涙して此の榮勝に我を忘れて立ち盡す中に日大亦悄然と退場。

新聞社のカメラに、寫眞屋のカメラに圍まれて始めて勝つたと云ふ事を意識した。此の榮譽、此の勝利。此の感激。

電報！電報は上田へ飛び大阪へ走る。一同疲れ切つて神田の万世軒へ、盛大且つ和氣靄々の祝勝の宴に招がれて我には何と御禮申上げてよいかに迷つた。

鄭重且つ感激的な讃辭を浴びた時には我等の此の勝利が否先輩、校友各位の此の優勝が現實であつたと感じて新な涙に咽んだ。夏の夜の短かさに名殘を惜しみつゝ汽車は一路上田へと進む。

早朝の上田驛には針塚、井上先生を始め各先生、學生諸君の盛んな御迎が待つて居た。我々は何と云つて御禮申上げてよいか解らず亦新しい優勝への思念を深めて此の早朝にも拘らず御足勞下さつた先生方に頭を垂れた。

過去を思ひ、此の四日間を思ふ時我々は我々が勝つたのではなく、校長先生、針塚前校長先生始め各先生の御熱意と、岡先生の御心勞、依田先生の御教導、淸水先生の猛稽古とが其の根元を作り、先輩各位の熱心な御聲援、校友諸君の御支援に依るものと深く〳〵感謝する。

特に在京の諸先輩は唐木田氏、上野氏始め寸暇を割き、業務を擲つて暑氣を物ともせず、ワイシャツに汗を流して道場に熱援して下され、或は歡迎、祝勝會までもして戴き唯々心から有難う御座居ましたと御禮申上げる許りである。

我々は校長先生始め各位の電報、激勵を受けてどうして負けられよう。どうして優勝旗を持歸らないで居られよう。

在京諸先輩の連日の御支援を得て勝たずに居られようか。敵を殘さずに歸られようか。體力のあらん限り、精神のあらん限り、働いたのもこれ等の御協力があつたればこそ。そしてそれ等が皆各位の魂の御聲援であつた事を痛感する時尙更に優勝を得ずんば止まずの志氣の素因となつた。勝つて泣いた先輩、連日のペンチコーチに疲れ切りつつも涙した淸水先生、連夜寢もやらず祈つて下さつた針塚先生、試合を見て居る事も出來ない程に眞劍だつた岡先生、これ等の魂の應援を思ふ時學校全體が關係下さつた全部の人々が混然一体となつて此の優勝旗を獲得して下さつたのだと深く〳〵御禮申上げる次第である。

最後に激勵電報を下さつた各位に紙上より厚く〳〵御禮申上げて擱筆する。

九月十日

母校ニュース

二學期始業式　暑中休暇は九月五日迄で六日時間割表七日一時間目は全員講堂に參集校長より訓示あり二時間目より第五回の校内勤勞奉仕が行なはれ午後より第二學期の授業に入つた。

第五回勤勞奉仕　九月七日始業式に引き續き第五回校内勤勞奉仕として校庭の除草が行なわれ、僅か二時間程で庭一杯に蔓延してゐた草も美々しく取り除かれ見違へる樣なグランドとなつた。

教練關係官會議　九月八、九の兩日第十四師團管下の直轄學校である桐生高工松本高校、水戸高校、宇都宮高農、本校の五校に於ける教練關係官會議が桐生高工で行なわれ、本校からは井上校長、高木大佐、行元生徒主事が出席され、青少年に賜りたる　勅語に對する學校側の採るべき事項、集團勤勞作業を有效にする手段、學校教練振作向上に關する研究、體育向上の手段等に付協議された。

秋山利夫氏陸隊體校　母校養蠶科植物學教室に勤務中昨年〇月〇〇〇に接し勇躍出發北支中支で奮戰された秋山利夫氏（蠶二十四）は召集解除となり此の程歸校再び植物學教室に勤務される事となつた。同氏は〇月〇〇以來保定、南京に駐在警備其の後江南第一線部隊として漢口攻略戰に參加昨年來戰病の身となり内地歸還療養全快後〇〇勤務で今日に及んだものである。

絲二年の乾繭實習　絲二年の乾繭實習は九月十三日正午より十六日正午迄三日間晝夜兼行で行はれ約八〇〇貫内外の乾繭を行なつた。

西入堅二氏退職　昭和十二年四月より絹紡織科業手其の後雇として撚絲機械業に從事してゐた西入堅二氏は九月十四日付を以つて退職され東京市城東區の興亞學院に入學された。

濱亮作君應召　絲選科二年濱亮作君は〇月〇日〇〇〇に接し同日午後講堂前の壯行會に臨み二時三十六分上田驛發にて職員學生多數の見送りを受け一先づ鄉里諏訪に向つた。

池内眞吾氏の榮轉　戰傷の爲七月歸鄉を命ぜられ屋代高女在職の傍ら母校天柞蠶實地指導囑託となつてゐた池内眞吾氏（蠶一九）は今回滿洲國立柞蠶種繭場に勤務せらるゝ事となり九月十六日任地に向け出發された、御奮闘を祈る次第である。

集團勤勞作業第三、第四組實施　左記の如き日程で地藏峠近くの鳴尾牧場に於てバラ藪雜木等の掘拔き作業を行なつた宿舍は八坪鐵泉で午前六時起床、室内清掃、國歌奉唱、國旗揭揚、宮城遙拜、ラヂオ體操を終つて朝食、八時二十分宿舍を出發して十時作業場着營林署員指導の下に作業開始、晝食休憩一時間三時作業を終へて四時半宿舍に到着夜は一時間内外の會合、就寢前十分間靜座等規則正しい生活の内に勤勞奉仕の目的を充分達する事が出來た。

第三組
期日　九月十一日至九月十四日
人員　生徒三十四名、職員倉澤教授、行元生徒主事、志賀生徒主事補
小山囑託、小林副手

第四組
期日　九月十八日至九月二十一日
人員　生徒二十八名、職員志賀生徒主事補、古平講師、山田講師

新保義一氏新任　曩に退職された西入堅二氏の後任として九月十八日付を以つて新保義一氏が絹紡織科に勤務される事になつた、同氏は小諸商業卒業以來市内東鄉堂新聞店に勤務してゐた由。

瀧澤七郎氏應召　昨年母校養蠶科卒業以來蒲生教授の下で研究の助手をしてゐた瀧澤七郎君は病氣療養中の處去る〇月〇日〇〇に接し職員學生多數の見送を得て出發せるも病ひ未だ全からず即日歸鄉となり目下自宅にて靜養中である。

玉井寛次氏應召　昭和十年九月本校に入り業手として人絹に勤務其の後雇となり圖書に勤務中の玉井寛次君は〇月〇日〇〇され職員學生多數に見送られ奮躍出發され〇〇に入隊された。

高木千枝大佐專屬となる　晨に進藤憲三大佐の後任として長野師範、長野中學掛持で母校に配屬新任された高木千枝大佐には今回九月二十日付を以つて母校專屬となり專ら學生の教練訓育に當られる事になつた。

學生の放送　九月二十日午後五時半より三十分間興亞勤勞報國學生隊として派遣された、北支班、伊藤嘉三郎（蠶三）滿洲班小山富治（蠶三）兩氏の現地に於ける建設作業並に體驗談の放送があつた。

勅語奉讀式　九月二十二日午前七時四十五分より講堂に於て先に青少年學徒に賜りたる　勅語奉讀式あり續いて學校長の訓示があつた。

第二回文化講義　本年第二回目の文化講義として九月二十二日午前八時より十時迄二時間に亘り講堂に於て元帝大教授鹽谷温氏の「日本精神と世界平和」と題しての講演あり日本書記、論語、孟子等を骨子として順々と日本精神をとかれ職員學生一同に非常な感銘を與へた。

興亞勤勞報國隊報告會　九月二十三日午前九時より興亞勤勞報國學生隊として北支に又滿洲に派遣され歸校せる學生の報告會あり、先づ滿洲班引率者行元生徒主事の挨拶について滿洲班の柿澤和英君（紡三）北支班の加子三郎君（蠶三）立つて行動の順路に從ひ各地の感想を述べ匪賊と戰ひつゝ鐵道を警備する將兵の勞苦を語り兩者共勉學にいそしむ許りが現在の學生ではなく身心の鍛錬は勿論の事自肅自戒以つて非常時學生として恥ぢざる行動を取るべきであると結び時局柄學生一同に大きな感激を與へた。

二學期各寮長任命　九月二十六日今學期に於ける各寮の正副寮長任命があつた。

寮長
修巳寮　宮田　章（紡二）
東寮　安岡美登（絲二）
高嶽寮　村瀨益男（蠶二）

二學期總代任命　九月二十六日今學期の各級總代の任命式が校長室に於て行なはれ左記の如く夫々正副總代が任命された。

	總代	副總代
蠶三	小山　富治	村澤　巧
蠶二	榎内　明	北村義近
蠶一	大久保孝一	福田英彥
絲三	御子柴希太郎	狩野宏平
絲二	宮田　章	芽野和雄
絲一	鈴木敏夫	岩佐隆次
紡三	村本　孝登	東海林誠治
紡二	瀧澤今朝教	吉田登美夫
紡一	伊藤要次郎	松本　直
教二	笠井　里志	松村志滿子
教一	小林すぎ枝	岡田十三子

朝香大將宮殿下奉送迎　軍需工業並に軍事援護事業御視察中の軍事參議官朝香宮鳩彥王殿下には富田縣知事等を隨へさせられ廿七日午後一時四〇分上田御着鑑紡上田工場へ御成り遊ばされたので學校では市内各種團體と共に各科三年生及授業に差支へなき職員一同が御奉送迎申上げた。

原みつ子氏退職　蠶絲化學教室勤務雇原みつ子氏（教六）は家事の都合上九月二十八日付を以つて退職された、同氏は養成科卒業後岐阜市丸木商會に勤務昨年九月本校に勤務今日に及んだものである。

養成科の徽章決る　永らく懸案の的となつてゐた養成科の徽章は此の程やうやく出來二學期より着用する事となつた。左胸上に輝く如何にも乙女らしいこの徽章で今迄時々問題となつてゐた生徒業手の區別もはつきりした譯である。因に同科卒業生で希望者には送料共二十八錢で分讓する由、希望者は養成科宛申込まれるがよい。

小林副手講師となる　昭和十年三月卒業以來母校蠶種實驗室に勤務されてゐる小林敏氏（蠶二二）は九月二十九日付講師を囑託され、絲一、紡一、教婦一の養蠶論を受持たれることとなつた。

談話會例會　暫く休會となつてゐた談話會例會は九月二十九日午後四時より千曲會館階上に於て開催された、談話者及談話題目は次の通り。

一、織維の格子常數計集法の一例について　窪田助教授
二、苞麻蠶業に就いて　山口助教授

賀川豐彥氏講演　宗教家、社會教育家として有名な賀川豐彥氏は上小キリスト教協會の招聘にて來田されたるを機に、母校でも講演を依頼し、九月三十日午後一時より講堂に於て「新宇宙觀と新人生觀」と題する三時間に亘る講演を聞いた同夜は市の商工會議所講堂でも講演される筈であつたが、校外からも聽講者ありその蘊蓄を傾けたる思想に滿堂皆魅了され、大いに啓發される所があつた。終演後、辯論部主催の同氏圍んでの座談會も催された。

歸校御挨拶

謹啓　時下秋冷の候愈々御清適の段慶賀の至に奉存候、陳者私儀一昨年〇月應召以來北支轉戰及戰病療養中は格別の御懇情を賜り奉深謝候、病氣全快せば再び第一線に赴くを樂しみに致し居り候處不圖も退院後召集解除と相成り單び母校に勤務致す事と相成候に就いて今發供信舊の御交誼御願申上候先は乍略儀以紙上御禮旁々御挨拶申上度如斯御座候　敬具
昭和十四年九月
（舊性原）　秋山利失

退職御挨拶

謹啓　秋も酣となり皆樣には快い日々を迎えて居らるゝことと存じます。私事昨年九月より母校に御世話になりまして丁度一年で御座います。今度家庭の都合上退職致すことになりましたが、皆樣には今後共一層の御交誼下されんことを御願ひして退職の御挨拶に換へます。　敬具
昭和十四年十月
蠶絲化學教室
原　みつ子

化學藥品　上田市原町
化學染料　山崎山林堂
農業藥品　電話四一三一

農業藥品　化粧品
純良藥品　寫眞材料
三共農業藥品ウスブルン
東信代理店
上田市海野町
合資會社　河合商會
電話（海野町營業所）二七八一五

校友會ニュース

弓道部對松高、高蠶定期戰　弓道部は九月十七日松高を、同二十四日高蠶を公園道場に迎へ、定期戰を催した。

對高松戰には、折から曇り勝ちであつた天候は試合の進行と共に惡化、終始惡コンデイションであつたにも拘らず左の如き成績にて快勝した。

松高　百二十射　五十二中
本校　全　五十九中

本校出場選手は、今井（蠶三）、森山（絲二）、上島、佐藤、武井（以上紡二）、橋詰（紡一）の諸君で、此の中最高的中者は武井（二十射十五中）君であつた。尙、對高蠶戰には武運拙く惜敗した。戰績左の如し。

高蠶　百二十射　六十九中
本校　全　五十八中

本校出場選手は對松高同樣、最高的中者は上島（二十射十五中）君であつた。

競技部東京高蠶に四年連勝　競技部では九月二十四日東京高蠶を上田に迎へ定期戰を行ひ四〇對三六のスコアを以つて辛勝した。これで連續四年勝放しと言ふ理である。戰績は次の通り。

一等　二等　三等

種目　牧江（東）　加藤（上）　中山（東）
百米　加藤（上）　牧江（東）　相澤（上）
二百米　佐藤（上）　御子柴（上）　海野（上）
四百米　江坂（東）　清水（東）　橋本（東）
八百米　清水（東）　早野（上）　柿澤（上）
千五百米　清水（東）　横澤（東）　海野（上）
走巾跳　關谷（上）　今野（東）　横澤（東）
三段跳　關谷（上）　神崎（上）　神崎（上）
圓盤投　荻原（東）　清水（東）　柳澤（上）
砲丸投　相澤（上）　清水（東）　今野（東）
走高跳　高橋（東）　神崎（上）　神崎（上）
棒高跳　神崎（上）　佐藤（上）　牧江（東）
槍投　吐師（上）　伊藤（東）　足立（上）
八百米上蠶軍（御子柴、濱村、相澤、加藤）

劍道松高に快勝　劍道部は九月二十四日松高軍を上田に迎へ定期戰を行ひ個人勝負、勝拔勝負共快勝した。

個人勝負

松高　本校（九—五）
○等　中川　宮下○
○眞田　市川　福田○
武田　伊藤○
○長谷見　片山○
太田　高橋○
芳野　小山
黑澤　中村○
○寺島　外村○
○山本　二宮○
○村岡　松田○
市瀨　安岡○
——×——
宮原○
寒河江○

櫻井　小林○
○奧田（一本）　工藤
勝拔勝負
松高　本校（宮下）
○芳野　宮下○
中川　福田○
○眞田　伊藤○
○寺島　片山○
○山上　高橋○
（二刀流）
長谷見　小山
黑澤　中村○
奧村　外村○
○市瀨　安岡○
○櫻井　松田○
○等原　寒河江○
○力田　小林○
○武田　工藤○

演奏會　音樂部では九月三十日午後六時より母校講堂に於て秋季大演奏會を催した。曲目及主演者を左に示す。

第一部　一、ハーモニカ合奏「校歌」「校友會歌」全員　二、獨唱「日の出島、外」安立、伴奏若林　三、絃樂器合奏「赤い翼」「ラ、スパニョラ」　四、ハーモニカ二重奏「アロハ、オエ」「フアースト」野島、稅田　五、ギター二重奏「コロラドの月」「朝月夕月」龍谷、三宅　六、ヴアイオリン獨奏「ニーナの死」「白鳥」稅田　七、獨唱「母子船頭唄」「大平洋行進曲」關谷　八、ギター獨奏「ラ、パロマ」「セバストポール」野島。

第二部　一、ハーモニカ合奏「高等學校生徒」「敷島行進曲」　二、絃樂器合奏「イタリーの庭」　三、獨唱「美しの屑」野島、三宅　四、ハーモニカ獨奏　稅田　五、獨唱「父よあなたは强かつた」「大日本の歌」　六、ハーモニカ合奏「荒城の月」「アルヽの女」全員　七、絃樂器合奏「セバストポール」「ラ、パロマ」「セバストポール」野島。

野球松高に大勝　秋晴れの九月二十四日松本高等學校との野球定期戰は井上校長の始球式を以つて開始され、一回表一點を先取すれば四回表一點を奪われ五回表三點を取れば五回表二點を取られシーソウゲームを以つて前半を終り、後半の總攻擊に流石の松本軍も總崩れとなり六回一點七回五點九回三點と結局十三對四で大勝す。

本校　1
松高　0
0
0
1
2
0
0
0
1
0
0
0
3
1
5
0
3
4　13

卓球部丸子鐘紡に勝つ　去る九月三十日、本校卓球部は鐘紡丸子工場と試合し左の成績を以て快勝せり。

本試合には一年生二年生が出場し三年生は此に參加せず。

鐘紡　本校

翠川　0—3　一貫田
干川　0—3　上野
小林　0—3　大西
荒井　0—3　西田
橋本　3—2　今井
佐々木　0—3　池田
横山　0—3　今田
伊藤　1—3　坂口
小野澤　1—3　佐藤
高野　0—3　坂根
佐藤　1—3　中根
分中　0—3　大坪
横山　3—2　中島

野球山梨高工に勝　九月三十日野球部員は山田講師、塚田副手に引率され山梨に至り十月一日高工グランドで對戰二年間預けたまゝになつてゐたカップを見事持ち歸る事が出來た。

午前十時高工校長の挨拶に續いて上田の先攻にて火蓋は切られ一回表早々に三點を先取すれば二回裏長短にて一擧に三點を奪はれ四回表一點を取れば四回裏又一點を奪われ五回兩軍〇と將に火の出る樣な接戰で前半は終了、六回裏二點を先取されたるも我がチームの意氣愈々軒昂七回表一點を返し八回表走者二壘におる時三番打者柳澤君（蠶三）の一擊は左翼頭上を遙かに越す大ホームランとなり二點を入れ、九回表更に一點を加へ結局八對六に勝つ事が出來た。

本校　3 0 0 1 0 0 1 2 1 8
高工　0 3 0 1 0 2 0 0 0 6

辯論大會　辯論部では十月一日午後一時より秋季辯論大會を講堂に於て開催、午後四時盛會裡に終了した。

辯士及び演題左の如し。

一、開會之辭　絲三　野島　忠義
一、行く道　蠶一　本田　孝
一、祖國愛　紡二　淺井斧右衞門
一、時局と學生　紡三　川合　久午
一、俺の思ふ教育　蠶三　小川　泰弘
一、賀川先生の講演をきゝて　蠶二　水口　米雄
一、土に歸れ　絲一　足立健三郎
一、生かれて生きる　蠶三　藤澤　豊
一、所感　絲二　井上　次郎
一、閉會之辭　絲三　河野　英記
以上

縣下中等陸上競技　本校陸上競技部主催縣下中等學校第一回陸上競技大會は十月一日上田市營競技場で擧行、地元の上田中學を初め大町、野澤、屋代、松本の各中學長野、松代、松本の各商業に丸子農商の九校參加、銃後若人の意氣を示し興亞奉公日を飾るに相應しい熱戰をを展開結局松本軍が各種目に振ひ第一回の覇權をにぎり優勝旗を獲得した。

各種目一等記錄は次の通り。

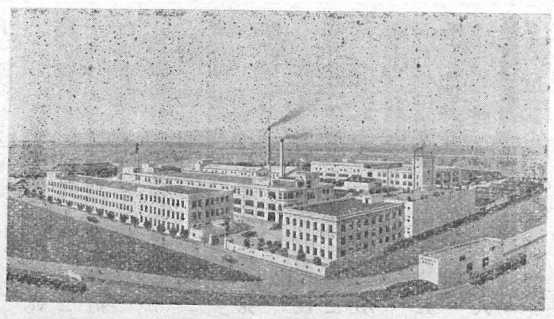
種目	氏名	記錄
百米	加藤（屋中）	12秒2
二百米	荻原（上中）	24秒8
四百米	小山（松商）	1分0秒1
八百米	桂川（大中）	2分19秒
千五百米	高橋（長商）	4分53秒3
四百米繼走	上田中學	
千米繼走	上田中學	2分18秒6
三段跳	水崎（上中）	12米87
圓盤投	水崎（上中）	28米10
棒高跳	鳥山（松商）	3米
走巾跳	瀧澤（上中）	5米75
砲丸投	荒井（長商）	11米54
走高跳	松岡（松商）	1米72

得點

松本 73
野中 19
丸農 10
上中 54
大町 13
長商 41
屋中 13
松中 38
松代商 12

蹴球惜敗　長岡に遠征した蹴球部は十月一日長岡高工グランドに於て午前は新潟高工午後は長岡高工と對戰惜敗した。

……好評嘖嘖の新製品……
新海藻糊料　オリゲン
● 布海苔代用として布海苔に優る
● アルギン酸曹達糊の遠く及ばない
● この効力この品質
繰撚浸漬用油劑　ノイガルS
● 他に何等乳化劑を必要とせず
● 浸漬絲に從來の油劑では得られない
● 特殊の柔軟味と圓滑性を附與し
● 增量の目的をも達し得る
玄武マルセル石鹼
特許新洗劑モノゲン
染織工業用藥品
第一工業製藥株式會社
本社　京都市下京區七條千本南
營業部　大阪市東區淀屋橋南詰中央ビル內
支社　東京市日本橋區本町四丁目



運動用具
理化器械
化學藥品
度量衡
計量器
掛圖全般
は弊店へ
カルニユー顯微鏡
山田体育機械
森本運動具店
日本出版社
長野縣代理店
信濃教育品株式會社
サトウ商店
東京本店　電話日本橋(24)六五五番
長野支店　電話二七三四番
篠ノ井支店　電話一四一番
上田支店　電話五七三番
松本支店

本會記事

本會日誌

九月六日　小泉辰雄氏外十一名へ慰問品發送す

九月八日　竹内博雄氏外三十二名へ慰問文及寫眞發送す

九月二十九日　間宮成吉氏（蠶七）郷里に於て縣會議員に當選せらる祝電を發す

九月三十日　副田好美氏（絲二十一）名譽の戦死せらる電報にて弔意を表す

十月三日　平山俊夫氏（絲十九）逝去せらる弔慰電報發信す

向上資金中へ御寄附

石川縣繭檢定所在勤の中塚ミツ子氏（教四）より本會向上資金として金七圓也寄附せらる洵に感謝に堪へず御厚志に對し本紙上を以て厚く御禮申上ぐる次第なり（北陸支會取扱）

針塚長太郎先生謝恩記念資金申込報告（第十回十月五日現在）

金六圓也　小松茂男
金參圓也　白工孫七郎
右合計金九圓也
累計金壹萬〇四百九拾貳圓也

針塚長太郎先生謝恩記念資金受領報告（第七回十月五日現在）

金四拾五圓也　原田兵衛
金拾五圓也　精谷遠三樓
金六圓也　小松茂男　岩根謙
金參圓也　白工孫七郎
右合計金七拾五圓也
累計金壹萬〇參百參拾圓也

內田先生記念品贈呈資金報告（第四回）

金六圓也　野本信次
金參圓也　目崎武美
金貳圓也　渡部齊　川村五郎
金壹圓五拾錢　翠野愼一郎
金壹圓也　岡豊治郎　小口宗久
北澤　泉　山口悠紀男
小澤正一　小島求　柳澤二
中尾知則　白井要範
依田實　手塚政吾　久保井左武郎
本橋万三郎　寺井原藏　小川典二
山越茂　松村惠一　清水英一
右合計金參拾參圓五拾錢也
累計金壹百參拾貳圓也

會費領收（十月五日現在）

昭年十四年度會費金四圓也

內田先生記念品贈呈資金募集

拜啓　時下益々御清穆之段奉恭賀候

偖て內田先生には御承知の如く大正十二年十二月母校御就任以來實に十有五年の久しきに亘り母校教官として或は又校友會部長として全力を傾けて御盡瘁下され母校のため貢獻せられしこと眞に大なるもの有之吾々會員一同感謝に不堪所に御座候

然るに此の度七高工增設さるゝや招かれて多賀高等工業學校機械科長に御榮轉せられ既に新任地へ御赴任被遊候

就ては此の際先生の御功績を讃へ且多年の勞に報いん爲資金を募集し記念品を贈呈し聊か感謝の微意を捧げ度候間左記要項御諒承相成御賛同の上御醵金被成下度此段御依頼旁々得貴意候　敬具

募集要項

一、醵出金額　御隨意
一、申込期限　昭和十四年十月末日迄
一、送金先　上田蠶絲專門學校千曲會　便宜上千曲會の振替貯金口座（長野六二四三番）御利用相成度尙「內田先生記念品贈呈資金」なる旨御明記願上候

一、受領證　千曲時報に掲載し受領證に代ふ
一、記念品選定及贈呈方法は發起人に御一任相成度

發起人（五十音順）

岩男　荻原　清治　岡本　榮一
五郎　倉澤　美德　窪田　圭潤
忠幸　近藤　正治　須田　二誠
功　手島　孝一　西原　登
小川　小野　茅野　松村　上田
茅野　鷹野　蒲生　俊興
松浦　彰義　山崎　新太郎　光雄
渡邊　綱男　山崎　骨太郎　誠一
横內　林千葉　古平　笠原
豊彦　貞三人　達庄　衞巳

第十三回代議員會開催通知

來る十一月二十三日午前九時より母校に於て第十三回代議員會を開會致します。

支會長各位には管內代議員に御出席下さる樣御配慮御願申上げます。而て御參會下さる各位の御氏名前以て本會迄御通知下さい。

昭和十四年十月　千曲會

四方定雄（蠶九）　大高雄三（蠶九）
西市三郎（蠶九）　佐藤重太郎（蠶九）
宇田川秀一郎（蠶一〇）　門田虎（蠶一〇）
岩根謙（蠶二）　結城鎭男（蠶二）
山口定次郎（蠶二）　川島熊太郎（蠶二）
大谷內三衞（蠶二）　野口治也（蠶三）
三輪貞德（蠶三）　齋藤孝道（蠶三）
金子幸一（蠶三）　寺島雅彥（蠶三）
竹內善吾（蠶四）　佐村和夫（蠶四）
藤澤康雄（蠶四）　西本朝平（蠶五）
笹本保雄（蠶五）　櫻井弘吉（蠶五）
新井宇之輔（蠶五）　大澤寶市（蠶六）
藤本衞佐雄（蠶六）　宮本清松（蠶六）
松本秀雄（蠶六）　富本雅彥（蠶六）
坂田武（蠶六）　桑原與四右衞門（蠶七）
青木幸雄（蠶七）　宮堀俊雄（蠶七）
森亮平（蠶七）　中澤利三郎（蠶七）
關辰雄（蠶七）　永井眞吉（蠶八）
細川俊雄（蠶八）　笠原四郎（蠶八）
山本卯一（蠶八）　細川豊（蠶九）
岡本正男（蠶九）　武田一好（蠶九）
町野巖（蠶九）　戸部正久（蠶九）
山浦卓郎（蠶九）　工藤實司（蠶九）
宮入保（蠶一〇）　市川信一（蠶一〇）
高木修（蠶一〇）　遠山正人（蠶一〇）
宮川千三郎（蠶一〇）　池田俊郎（蠶一一）
傳田靜夫（蠶一一）　小關悅郎（絲九）
石原滿洲夫（蠶一一）　四方藤雄（絲九）
蓮沼光治（蠶一一）　丸山勳（絲一〇）
森山甫（蠶一一）　白井美明（絲一〇）
瀧澤幸（蠶一一）　四良（絲一一）
多田忠正（蠶一四）　武井仙太郎（蠶一四）
內藤康三（蠶一五）　瀧澤七朗（蠶一五）
塚田典次（蠶一五）　目崎武美（蠶一六）
瀧澤昌一（蠶一六）　近藤員矣（蠶一六）
島倉督造（絲九）　本山正美（絲九）
小山雅夫（絲一〇）　新庄哲二郎（絲一一）
石濱正己（絲一一）　石井謙三（絲一一）
柳澤忠次（絲一二）　和田晉（絲一二）
多勢龜次（絲一二）　白井要範（絲一二）
山田斧一（絲一三）　畠山茂忠太（絲一三）
三浦明義（絲一三）　小島求（絲一三）
長谷川洋治（絲一六）　田尻恒治（絲一六）
小口彙男（絲一五）　星野拓弘（絲一六）
松田偉（絲一七）　生井精一（絲一七）
村工龜久司（絲一七）　片倉二郎（絲一七）
望月太一（絲一七）　小口喜代人（絲一七）
太田良信（絲一七）　中村守太（絲一七）
鈴木保男（絲一八）　宮坂榮（絲一八）
松井憲二（絲一八）　中尾知則（絲一九）
大木定雄（絲一九）　林清市（絲一九）
小林悅郎（絲一九）　四方藤雄（絲一九）
永田勳（絲一〇）　小林進（絲一〇）
白井英（絲一一）　新村功（絲一一）
金丸五郎（絲一一）　林正平（絲一一）
高椅茂（絲一一）　武者忠彥（絲一一）
有賀敏男（絲一一）　尾澤俊三（絲一一）
野本信次（絲一二）　久保井佐武郎（絲一二）
桑木正義（絲一三）　伊藤茂（絲一三）
羽田滿（絲一四）　川村千尋（絲一四）
伊藤一義（絲一五）　中村重雄（絲一五）
小川典次（絲一五）　鹽入重雄（絲一五）
黑川春雄（絲一五）　平子榮作（絲一五）
柳村三治（絲一五）　佐藤俊郎（絲一五）
巽輪良亘（紡一一）　清水保（紡一一）
小林徹（紡一一）　野口新太郎（紡一一）
村島　小松忠一郎（紡一一）
岡豊治郎（紡一五）　宇治義治（紡一七）
市原安臣（紡一七）　北村育穩（紡一八）
高坂巖保（紡一八）　大森一男（紡一一）
寺井子藏（紡一一）　矢島行雄（紡一一）
柳澤柳二（紡一七）　宮坂科晃（紡一八）
木村欽一（紡一八）

未納會費納入者

金四圓也（昭和七年度前期分）　飯塚安治（蠶一七）
金四圓也（昭和十三年度分）　山岸武（蠶一三）
金四圓也（全）　藤松利八（紡一五）
金四圓也（昭和八年度分）立木一千（紡一一）
金四圓也（昭和九年度分）立木一千（紡一一）

入會金納入者

完納者　西川正夫（蠶一六）
金五圓也　小川典二（絲一六）

千曲會准會員會費昭和十三年度納入者

金八拾錢
大槻まき（舊教）　伊藤幸枝（舊教）
峰村芳子（教五）　飯島安子（教六）

昭和十四年度納入者

近藤たけ（教二）　關あぐり（教三）
荻原マサジ（教三）

叙任辭令

書職員之部

正五位勳五等　春日井新一郎
叙勳四等授瑞寶章（九月二十三日）

母校之部

副手ヲ命ス　市原文雄
製絲科勤務ヲ命ス（九月五日）　天柞蠶實地指導囑託　池內眞吾
願ニ依リ囑託ヲ解ク（九月十一日）　雇　西入堅二
願ニ依リ雇ヲ免ス（九月十四日）　新保義一
雇ヲ命ス
絹紡織科勤務ヲ命ス（九月十八日）　從四位勳五等　佐藤利一
叙勳四等授瑞寶章（九月二十三日）　雇　原みつ子
願ニ依リ雇ヲ免ス（九月二十八日）　副手　小林敏
兼講師ヲ囑託ス（九月二十九日）　生徒主事補　志賀章雄
給四級俸（九月三十日）

卒業生之部

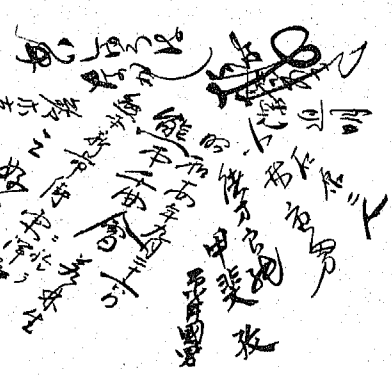
公立實業學校教諭　中澤勝也
高等官五等待遇　同　崇村壽命
高等官六等待遇（以上九月一日）　公立實業學校長兼教諭　小野正男
年功加俸年額九拾六圓下賜（三月三十一日）　地方農林技師　石原石司
十一級俸下賜（八月二十五日）　公立實業學校教諭　近藤正巳
滿洲國ヘ出張ヲ命ス（九月十五日）　從五位勳六等　稻石佐一
叙正五位（八月一日）
陸軍歩兵少尉正八位勳七等　倉元隆太
同　勳六等　鈴木正悟
任陸軍歩兵中尉
陸叙高等官三等　特許局技師　兒玉忠雄
公立實業學校教諭　後藤宰一
願ニ依リ本職ヲ免ス（以上九月三十日）　公立實業學校長　小野正男
陸高等官四等待遇
公立實業學校教諭　五島眞喜太
陸高等官六等待遇　同　大高雄三
靜岡縣立御殿場實業學校教諭ニ補ス　福島縣農林技師　北澤周一
（以上十月二日）　群馬縣農林技師　岩根謙
高等官七等待遇（先月號ニ八等トセルハ誤）

支會通信

熊本千曲會便り

今年の夏は縣蠶業試驗場、繭檢定所へ遙々母校の學生が實習にやつて來たので實習狀況視察の爲め母校教官の御來熊を豫期し、この際久し振りに千曲會を開催して懇親を重ね樣と思つて居た所遂母校からの御來熊がなかつた爲め千曲會の開催もお流れとなつて居た。

しかしどうしても一度は一堂に會して氣炬を擧げたいと言ふ念願が會員の間にほのめいて居たので九月も終りに近づき晩秋蠶も多忙の最中ではあつたが熊本に集合して頂き一夕の歡を盡した。



今年は熊本縣としては御承知の通り實に八釜しい二三の問題が横たわり會員のうちではこの渦中に卷込まれ神經衰弱にならんとして居る人も少なくないのでこの一夕の歡樂は恰も砂漠でオアシスを發見した旅人の樣なもので婆婆の事は一切忘れて水入らずに笑ひさゞめいた。

尙當日の出席者を順序不同に拾つて見ると。

緒方良純氏、甲斐孜氏、三好彌市氏、長野忠顯氏、若林新一郎氏、相澤仲司氏、原井國男氏、石原二人氏、鈴木玄九氏、深迫明氏及筆者小林重男の十一名であつた。

尙熊本千曲會としてはこの數年間會員の增減は殆んどなく最近に新進氣鋭の井手末馬氏、小川春男氏を失ひ更に又平山俊夫氏が去る九月二十五日逝去されたことは誠に悲傷の至りに堪えず。春秋に富める諸氏を失ひたることはかへすがへすも殘念であると共に御冥福を祈る次第である。

（小林重男記）

上は千曲會開催當日の寄書である。

蠶七間宮成吉氏岐阜縣々會議員に當選す

長兄間宮成吉氏は現に岐阜縣加茂郡田原村長、組合製絲長良社專務理事、縣養蠶業聯評議員として町村自治に將又本縣蠶絲業關係に重きを爲し敏腕を振つて居られました處此度縣會議員選擧に立候補され縣下最大の激戰地加茂郡より打つて出られましたが定員三名に對し立候補者五名にて我々としても不尠心配して居りました處、見事最高點を以て當選せられました。勿論氏の人格並平素の手腕の結果と敬禰する次第であります。我々千曲會員として喜びに堪へないと同時に同氏の今後に對し祝禰して止まない次第であります。將に興亞の大業に直面せるの秋嘗新なる政策と躍動する精神力とを以て縣政壇上に獅子吼する氏の姿が夢寐致す次第であります。氏の將來は益々洋々たるものであります。尙同氏の令兄は曩に代議士に當選せられた政治家で本縣民政黨の重鎭です。

間宮氏の喜びを會員皆樣に御傳へ致し度いと存じます。（九月二十七日）松井生

紐育通信

林　貞三

紐育千曲會開催の事

八月廿二日、T.G.E.S.(L.B の植田所長から三井の杉山一雄君歸任の送別と若林清君の結婚祝賀とを兼ねて晩餐を共にし度いから林にもと御招きを受けた。杉山君には餘日もない事故、有賀、矢野、馬場君の參加も御聞屆け願つてホテルアスターで紐育千曲會總員參集の機會を得た。七時、屋上でカクテールに始まり、食堂に入つて思ひ〳〵註文の食事を採りつゝショー見物、二度屋上で食後の酒宴中、勝手な熱を揚げ愉快に語り會つた。十一時、植田所長の御厚意を萬謝しつゝ夫々宿へ歸へつた。

杉山一雄君と馬場武君

六月廿三日夜、シカゴを出立した時三井の杉山君と片倉の馬場君宛に二本長文を打電した。

Arrival time changed arriving Sunday Evening JuneTwenty-fifth Ten Oclock Standard time New York Central T.Hayashi

參考

1、こんな長文の電報を打つと目の玉の飛び出す位とられるのだが、こうした電報は慶弔電報式に十五字以內六十セント。

2、Standard time. Day right saving time とあり汽車だけ前者一般は春夏秋後者を用ゆる。前者より一時間進ませてある。學校で秋から九時に始まるのと同じ事だ。

3、停車場の送り迎は日本以外殆んどせぬ特に話のある場合とか僕の樣な不馴の旅行者の場合に限る。

4、紐育には停車場が幾つもある、鐵道公社も同樣だ。

Grand Central Stationに下車した譯だ。先づ馬場武君がヤアー先生！……ホテルはイムパイヤービルの隣、ホテルマカルピンに決めて置きました。其處で同行の旅行者に名殘を惜みつゝお別れの挨拶をして後、馬場君に杉山君は來られなかつた？先生の右側、杉山君ですよと云はれて面喰つてしまつた。眼鏡をかけ漸く亡父杉山寅雄氏を少々若かくした杉山君を發見した。杉山君は其の後、僕にとんな話をした。「紐育に四年間ほんとに思ふ存分働きました、又遊びもしました、紐育に思惜く事更に無しです。之が人生觀になつて明日死んでも良いと思ふ樣になつた」と述懷されたが之は眞當の言葉と思ふ。三井は同君にとり適材適所であつた、それ程打つて變つた堂々たる杉山君、而も上田の形破りである。杉山君をグランドセントラルで見送へる位はむしろ當然だ。君は近々任期滿ちて本社へ歸へられる事になつてゐる。社內外毎晩送別會だ。社外の日本人倶樂部の送別會は實に盛んなもので、こんな盛會は未曾有だと評され、僕迄肩身の廣さを覺えた。馬場武君は上田市出身であり、どんなに變つても判る自信がある。君が卒業する年の正月と記憶する。馬場、鈴木、宮坂君と嘗平へスキーに行つた事がある昨年の今頃、朝鮮で會つた鈴木君も紐育で磨き上げた馬場君も一寸も變つて居らぬ、少し變つたと思はれるのは岡谷の氏子總代宮坂君が養子なんと云はれぬ樣に造り威張りをして居る位のものだ。馬場君は完全に上田タイプを紐育で發揮して居る。片倉コポレシヨンへ行つて見れば矢野君と二人で五人前も仕事をして居る調査なども熱心だ。それで居て重役からは何をして居るか一向便りがないと云はれてゐるそうな。片倉の重役は眞にこうした働者を愛し、御世辭者にならぬ樣うまくリードして居られるなと僕は感心した次第である。馬場君は開放的で眞直ぐである事は會話を聞いて居つても良く判る。イフ　ユー　ガット――――と、來御蔭で僕は大助りだ。

矢野榮輝君と有賀康人君

矢野君は學生時代から我張り屋で理論的であつた、今もその通りだ、紐育で生絲の販賣係をやつて居る。電話を左に、鉛筆を右手にヤース　サンキウ……ビユース……小聲の特徴ある音で引切なしにやつて居る。岡本中央蠶絲會副會頭の送別會をユニバシテークラブで開かれた時の事、食事が終つて屋上で月光を浴びながら快談中何處ともなく來つたエアロプレインを見て矢野君は云つた、飛行機がこんなに低空飛行して居る時と空高く飛行する時と影は何れが大きいか？と慶大出の某氏は判り切つて居るではないか光線に近づくに從つて大きくなるさ……矢野君「だから駄目だ」と云ひながら說明に及ぶ處、學生時代そのまゝの矢野君を見た。商人になつても原田先生の物理學を忘れぬ石橋式商をして行く處、會社になくてならぬ存在で高く買ふべきだと思ふ。

有賀康人君

有賀君は中央蠶絲會から紐育博覽會のオフイシアルで來て居られる。以前數年間、紐育片倉に在勤し、久々で歸國が許され漸く花嫁を見付けて擧式を寸前に控へ再度來られた關係上、國からの便りを樂み待つ事切なるものある由。片倉常務と歐洲旅行をした事もあり、「ダンス位出來た方が良ですよ、紐育では入りませんが歐洲ではね」と來る邊り何うしても同窓中の先輩だ。

若林清君夫妻

蠶業學校から堂々入試を突破して製絲科へ入つた最後の君の樣に記憶する、溫良そのものゝ學生若林君を讀者は思ひ出すだらう。僕が横濱出帆の數日前米國から横濱に歸任、鄕里本原村で花嫁を迎へ八月十五日には御二人で紐育に歸着し、杉山君と交代と云ふ超スピードだ。妻は良く先生を御存じ申上げて居りますから是非來て下さいと云はれるまゝに十六日夕方、ホテルペンシルバニアに同夫妻を訪問して祝賀した。關かほるさんや鹽入貞子さんと同級な和村出身の方、僕が或る用件で大屋の鹽入家を訪問した時居合せた。この方が隣座敷ですつかり僕の話を聞かれたと云ふ段になると僕以外にその日の事を苦笑する人が數人あるだらうと思ふ。紐育では若林君か一番先輩かも知れぬ、少く共お嫁さんのある點に於てそう決めて良かろう。有賀君は年末迄には歸國され、一月は御結婚だらうし、殘るものは杉山君、矢野君、馬場君だ、適任者があつたら何うぞよろしく御世話願度候。

（廿四日）（千曲會宛）

御無沙汰御詫び

本日七月號蠶絲總覽と千曲時報とを落手、難有拜見仕候。七月十七日に六月號をウイルクスバレーのシーム氏工場へ參り居候際、紐育から廻送され殘らず拜讀仕候。早速御挨拶申上ぐべきの處、涙が出て書き得ざりし次第に有之候。時報七月號にも編輯室便りに多分七月十五日以前御書きの「通信の乏しき」御認定の許に御激勵賜り、御期待御要求の意外に弧大なるに驚き候が、最早涙も出ず候。御參考までに申上げ候が、桑港着が六月十六日、その船が十八日にロサンゼルスへ行き引返へして日本へ歸へるショウテストの便船に手紙が間に合つても、上田へは七月廿日以後でなければ着かぬと存じ候。紐育からはエーカメールで出しても廿四五日かゝる筈に有之候。日本の樣子は見方に依り、內地より一層良く判り申候間（新聞の事）紐育に居つては大した變りは無之候。早く渡歐を希つて居る矢先歐洲風雲急を告げ、ワシントン政府も在歐米人婦女子に歸國を命じ、新渡航見合せと相成り候。我が領事館でも少時見合の御達示に候。こうなると益々行き度く被存が人情と存じ候。大した戰爭にはならぬと小生は確信致し居る者に有之一ケ月後には行けるものと考へ居り候が萬一大戰爭ともならば南米を廻つて歸國可致候。兎に角紐育には今後一ケ月以上居らぬ豫定に候間紐育への御便りも御中止被下樣御願申上候。歐洲は英、獨、佛共三井物產支店にて居所の判る樣致置候。

（編輯室宛）

戰地通信

牛草榮喜氏より

殘暑踏しき折柄校長先生には益々御壯健のことゝ慶賀奉ります。平素軍務多忙に取紛れ、意外なる御無音に打すぎ申譯ありません。降つて私事御蔭樣を以て元氣旺盛にて最前線の任務に精勵致し居ります。故憚り乍ら御放念下さい。戰地も非常なる暑さで馬も兵も非常なる辛苦を致しましたが、八月に入り度々驟雨があります故此頃は凌ぎ易い樣に思はれます。敗敵は至る處に集結し、蠢動致し居り當地にも屢々夜襲に來るも攻勢に轉じ奇襲を行ひ意外なる大打擊を與へ、常に成功を收めて居ります。目下〇〇でありますます故頑固なる敵の擊滅せらるゝ日も遠からずと存じます。留守中は各位樣から何かと御同情と格別なる御配慮を忝ふし只々感激身に迫り、御言葉にも述べ難き次第であります。此の上は平素の御厚恩に酬ゆる覺悟にあります。時候不順の折柄折角御自愛の程遙か南支より御祈り申し上げます。（八月卅日）（校長宛）

二木三雄氏より

時下初秋の候と相成りました。貴下樣始め其の後お變りありませんか、時節柄國家綜力戰の戰士として困苦萬難を克服し、產業戰線に御奮闘下さる銃後の皆樣を思ふ時、不肖第一線に干城として征途に就きし吾々こそ決死的御奉公申上げねばなりません。偶々ノモハン事件勃發致し自分も〇〇〇より特別任務を以て第一線に出動しました。もとより一死報國は覺悟の上にて戰場に早二ケ月余を過しました。幸にも未だ身に一彈も受けず、無事御奉公續け申上げられるのも之皆樣の日頃の御武運祈願の賜によるものと深く御禮申上げます。興安嶺近き蒙古の平原は、狼を始め野獸の群多く、夜間等敵よりもこんな猛獸に惱まされる事のあるのは滑稽です。附近には諏訪湖より大きな湖あり不毛の地蒙古にも似付かぬ景色のよい所もありますが、何分にも山の中にて連絡も漸くする位にて、交通等も困難にて御無沙汰申上げて居ました。此頃は戰線も落着き、野戰郵便所も設られ數日前より始めて慰問文も見られる樣になりました。此處に來ても尙ソ聯機の空襲等に度々見舞され、空中戰等陸の荒鷲の男々しき姿も全く有難く感ぜられます。九千萬の力强き銃後を持つ皇軍は開戰以來連戰連勝悔り難しと思はれし大陸軍を誇るソ聯も遂に國境線上に見苦しき敗北の憂目を見て居ります。之勿論御稜威の下に具現されたる第一線將士の決死的努力の賜とは申し乍ら、銃後の皆樣の不斷の勤勞奉仕の御精神と國民精神總動員の御實踐によるものと信じて疑ひません。東洋平和の新建設に邁進する我が同胞に遲れざる樣第一線に先驅して、益々奮闘する覺悟に存じます。他事乍ら御安心下さい。先は皆樣の御健康を祝し不敢取近況を御告げ申上げます。（九月八日校長宛）

田村亮氏より

殘暑未だ甚しき折柄、校長先生には益々御壯健にて銃後御多忙なる劇務に御精勵の事と察し上げ候。討伐其の他雜務に追はれ、生來の筆不精も加り後無沙汰を重ね候も相變らず元氣にて第一線の御奉公を續け居り候間乍他事御放念被下度候炎熱の候は漸く去らんとしつゝあるも日中は極端に温度上昇し、內地の盛夏を凌ぎ、夜間は又急激なる冷氣に調節も六ケ敷く、氣管を傷むるものも有之候。此頃の戰闘は敵の眞面目の抵抗無き代り、遊擊の一手にて反つて戰闘し難く、殊に七月以來の數十年振りの豪雨にて河川の氾濫は勿論、平地至る處に大濕地を生じ、胸を沒する如き水中に戰闘する場合も一再ならず有之候。歐洲の戰禍も獨蘇の近接も問題とせず、唯現在の任務に邁進する第一線の志氣は益々旺盛なるものに有之候間何卒御休心被下度、末筆乍ら校長先生始め職員各位の御隆盛を祈り上候。先は近況御報迄。（九月十日）（校長宛）

慰問品受領の禮狀

賴富正廣氏より

殘暑尙激しき折柄、愈々御淸穆の段奉賀候。陳者不肖出征以來種々御懇篤なる御後援を賜り深謝龍在候處、此度は又御鄭重なる御慰問狀、並に過分の慰問品を御惠送被下候段、誠に難有厚く御禮申上候。降而不肖再度出征當地到着以來頗る元氣旺盛にて專心奉公致居候間何卒他事乍御放念被下度願上候。東亞新秩序建設の重大使命を有する今事變も、上陸下の御稜威に依り着々として戰果を擴大致し將に其建設の段階に入らんとするに當り突如として不可侵條約の締結に依り事變の前途も益々複雜多岐と相成候此上は不肖等國境警備に服する者は一層自肅自重倍舊の奮闘に依り警備の万全を期し以て銃後の皆樣の御後援に報ずる覺悟に御座候。時節柄御尊堂樣には益々御自愛遊さる樣はるかに御健康を御祈り申上候。末筆乍ら母校恩師樣に宜敷く御鶴聲賜り度願上候。先は右書中にて御禮申上度如斯御座候。（九月二日）（校長宛）

鈴木正悟氏より

常々心にいたしながらもついに御無沙汰のみいたして居りまして誠に申譯御座居ません。不惡御海容下さい。昨今は朝夕めつきり秋めいてまいりました。先生には其後愈々御壯健の由承り、全く慶賀至極に存じます。降つて小生出征以來既に一年半、皆々樣の御後援の御蔭を以つて無事邦家の爲御奉公いたし居ります故乍他事御安心下さい。扨て、此の度は御鄭重なる慰問狀に接し、有難く拜讀致しました。尙又本日は御心籠れる數々の慰問品御惠送に預り、重ね〳〵の御厚志衷心より厚く御禮申上げます。當方面も殆んど治安回復致し、南方山地方面を除けば內地の「コソドロ」式の極少數匪にて、問題にする程の事もありません產業の方も大いに復興して參りました。然し春頃の旱天續きにて麥は不作、今又々大降雨にて相當被害があつた樣です。でも支那人特有の「メーハアズ」であきらめて居る樣です。でも興亞の聖業は順調に進捗致し居ります故御安心下さい。時局は益々多事多難、獨ソ間には不可侵條約、軍事協定が締結せられ遂に英國は獨に對し宣戰布告をしたとの號外が出、又々第二の世界大戰が始まるのではないでせうか。先日當部隊に來た學生諸君のあの潑剌たる元氣を見、まだ〳〵日本の國は大丈夫と全くたのもしく思ひました。自分も微力ながら皇軍の一員としてこの聖戰に參加の榮に浴し御奉公致して居ります故御安心下さい。今後は益々盡忠報國の誠をいたす覺悟故今後後共何分の御指導、御鞭撻の程願ひ上げます。乍末筆諸先生方に宜敷く御鶴聲下さい。亂筆亂文にて失禮致しました。先は右不取敢御禮申上げます。（九月三日）（校長宛）

赤尾文顯氏より

九月もなかばに相成りましたが、信州ではもう餘程涼しくなつた事でせう。其後は久しく御無沙汰に打過ぎて居りまして誠に申譯次第も御座居ません。何日も出來るだけ御便りだけは差上げ樣とは思ひ乍ら、なか〳〵實施出來ないで居ります。何卒不惡御容赦下さい。偖而、先達は御丁重なる御激勵、御慰問の御手紙を賜り、誠に有難く只々感謝感激の他御座居ません。校長先生始め諸先生方、同窓生御一同には益々御健勝にて御活躍の御趣に拜し、誠に結構至極に存じます。今日は又、御心盡しの御慰問の品々御惠送に預り之又感謝の他御座居ません。厚く御禮申上げます。御蔭樣にて自分も出征以來四ケ月餘、微恙だに知らず至極頑健元氣旺盛にて奮闘致して居ります。今後益々一意奮勵以て皆樣の御芳志に報ひると共に母校の名譽を汚す事無き樣努力致す決意で御座居ます。先は乍亂筆御禮旁々皆樣の健闘を祈り上げます。（九月九日）（校長宛）

平岡英司氏より

時下初秋の候と相成り幾らか凌ぎよき時候となつて來ました。校長先生にはその後御變りなく御暮しですか、遙か中支の陣中より御伺ひ申上げます。降りて小生御蔭樣にて至極元氣で奉公致して居りますから乍他事御休心下さい。却說本日は御熱誠溢るる慰問袋御送り下され只だ

丸型 隔測 記錄溫度計

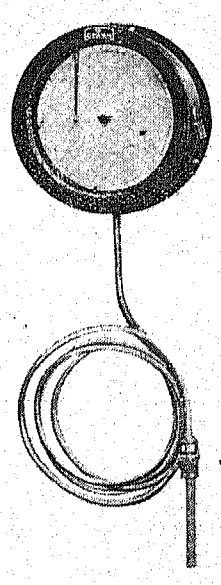
PR—20型　PR—25型

製作範圍

溫度　—40°Cヨリ+500°C
誘導管　通常　10M
時計　通常　24時間.一週間

附屬品

記錄用紙……100枚
インキ……1瓶
時計……1ケ
錠前……1組



株式会社 島津製作所

〳〵感謝の念で一杯でございます。厚く御禮申し上げます。只今は中支工業地帶○○地にて警備勤務に服して居ります。此の間も城外にて十三名密會中を捕まへて來ました。餘りくはしい事は書けません。當地も排英熱相當盛んにて驅除英國俄勢力とか書きました字を至る處で見ます。內地人も日毎に增し只今では約五○○名位になりました。でも、增加はまだ〳〵これからと思はれます。當地附近には今尙敗殘兵、敵が居り、毎日討伐に出かけて居りますが、何れは我正義の戰の前には一掃されることと思はれます。列車は夜は通りませんが、時々襲擊を受け遲れたり○○することと度々です。全く迷惑、弱りものです。では右乍簡單御禮旁々近況御通知しました次第です。尙今後共宜敷御指導の程御願致します。

（九月十日）（校長宛）

北澤泉氏より

天高く馬肥ゆる候が訪れて參りました校友會、職員、學生、皆々樣には益々御健在で斯業發展の爲に日夜御勉强の事と存じます。先日は結構なる慰問品御送附下さいまして有難く拜受致しました。常に銃後の皆樣の御努力に感謝感激致してをります。不肖私も出征以來進んで艱難に當り身を挺して事に從つてをります。何時も私情私慾を捨て一日も早く聖戰の目的を達成し東亞永遠の平和の日來らん事に日夜努力致してをります。

身はたとい中支の荒野に朽つるとも
とゞめおかまし大和魂

四圍にはまだ〳〵皇國の親切を無視するのみならず自國の良民までもくるしめる。凡そ人間道德を離れた支那兵、匪賊が無數に彼方此方と皇軍の眼を盜んで惡謀をもつて敵對してをります。彼等を改心させ良民を救はん爲に我等皇軍は如何なる炎熱をも物ともせず絕えず討伐を敢行致してをります。私も、此方に來て數回彈雨の中をくゞつて見ました。而し、微傷一つ負はず今日に及んだ事は全く神佛の加護によるものと信じ感謝してをります。之からも無數に討伐が敢行される事でせう。生とか死とか云ふ事は毛頭考へてはをりません。たゞ〳〵東亞の爲、日本の爲一意專心職務を全ふする覺悟でをります。時節も次第に寒冷に向つて參りました。どうぞ先生には一層御體に注意して斯業の爲に益々御盡瘁下さらん事を御願ひします。又校友會、職員、學生御一同樣の御健在を中支の陣營より祈つております。先は御禮の御挨拶を申し上げます。

（九月十日）（校長宛）

伊藤幸男氏より

秋冷相催し遂日快適に向ふ時節と相成候。折柄先生には愈々御壯健にて公務に御盡瘁せられ候御趣誠に大慶至極に奉存上候。陳者出征後は何かと御溫情を賜りながら兎角御無沙汰にのみ打過ぎ誠に申譯無之存居候。御蔭樣にて一年と五ヶ月に亘る軍務生活戰場生活も大過なく、體も至極頑健にて服務致居乍他事御放念被下度候。然るに今般は御鄭重なる慰問激勵の御玉章並に校友會、千曲會御一同樣の御熱情溢るゝ慰問袋御惠送に接し、非常な嬉しさと感謝の念を以て有難頂戴致したる次第に候。目下炎天を衝いて連日の討伐掃蕩中にて今回の慰問袋は一際嬉しく御皆々樣の御熱情の一つ〳〵を嚙みしめながら戰友と共に頂きたる次第にて重ねて厚く御禮申上候。昨今の中支は連日の快晴にて日中の討伐行は、稍々困却に候が、然し行動は實施致居候。最近の匪賊は日本軍によつて次に根據地を占據されし爲各少數部隊に四散し、從つて今回の討伐に於ても敵大部隊との衝突も無之我々をして脾肉の嘆を卸たしめ居る現狀に候が、それでも負傷者一名を出せし事は却す〴〵も殘念な次第に御座候。此種討伐は今後も續行される事と存上候が、尙一層自重以て皆々樣の御厚志の幾分にも添い度きものと存居候。氣候の變り目の折柄、先生には愈々御自愛專一の程衷心より祈上居候。

尙千曲會、校友會御一同樣にもよろしく御鳳聲賜り度、乍末筆取急ぎ御禮旁々近況迄。

（校長宛）

祈願祭寫眞に對する禮狀

伊比寛氏より

何時となしに秋風の候が訪れて參りました。校長先生を始め、諸先生に於かれましては愈々御壯健にて御勵みの事と伺ひ御慶び申し上げます。先日は御寫眞、御勵しの文を頂き恐縮感謝で一ぱいであります。小生も極めて元氣で勵んで居ります。四日(九月)から二週間○○の幹部候補生の集合教育を受ける爲に、○○○○○○に派遣されて參ります。よき國家の軍人として時局を鑑みて一意專心勵んで居りますから御放念下さい。校友會の全員の方によろしく御傳へ願ひます。

（九月二日）（校長及校友全員宛）

宮下文四郎氏より

兵營の蟲の音も秋を思はせて來ました先生には如何御起居遊ばされますか、御伺ひ申上ます。應召以來御無沙汰致し失禮の段御容赦下さい。本日は御手紙と御寫眞をお送り下され、有難く存じました先生の御健康を祈ります。

（九月三日）（校長宛）

石井清六氏より

初秋の候校長先生には益々御清穩の段奉慶賀候。過般は御繁忙の處態々不肖等の爲に盛大なる武運長久の祈願祭を擧行被下今又御鄭重なる御慰問狀並に記念寫眞を御送附被下、誠に有難く厚く御禮申上候。身幸ひ頗る頑健常に全力を傾注して皆樣方の御芳情に酬ひん覺悟にて、夜軍務に精勵致居候間乍他事御放念被下度候。右乍失禮以寸楮御禮申述度如斯御座候。

（九月六日）（校長宛）

浦野育郎氏より

過日は御丁寧なる御慰問狀並に校友會千曲會の御皆々樣よりなる武運長久祈願祭の寫眞を御送附被下、誠に有難く厚く御禮申仕り候。日夜御皆樣には銃後の守りに御多忙を極め居らるゝ折に拘らず、私達の武運の長久を心こめて御祈られ居らるゝを思ひ、今更ながら襟正し愈々責務の重大なるを感じ居り候。○○○召集以來、心國有るのみに候。○○○召集以來、心はすでに第一線へと逸り居り候も、何分にも命の致す所にて如何共仕難く○○○に勤務致し居り、今日まで數回に渡つて教育の任に當り居り候。目下中小隊教練實施の爲め○○○陸軍演習場に出張仕り居り候。お蔭樣にて私至極頑健、召集以來一日の休業も無く軍務に盡し居り候間何卒御休神被下度候。では校長先生始め校友會及千曲會の御皆々樣の御健闘を御祈り上げ居り候。先は不取敢御禮旁々近況まで。

（九月七日）（校長宛）

山內一次氏より

初秋の候益々御健祥の御事と賀上げます。今般は御慰問狀並武運長久祈願祭實景一葉御惠送被下芳御情洵に難有厚く御禮申上げます。小生未だに內地勤務にて歸還傷病兵の診療看護の一意勵んで居ります。八月こそは待望の征野に立てると鳴る腕を撫して待機して居りましたが、餘り草深き田舍の爲か遂當院御撰に洩れ好機を逸し、殘念に堪へません。此上は益々自重して奮鬪致し、皆々樣の御期待に副へたき念願であります。先は不取敢御禮述候。乍末筆御健康を御祈り致します。

（九月十日）（校長宛）

鈴木英夫氏より

秋冷の候愈々御清福の趣き何よりの事と御祝詞申上げます。今度は私達出征者の爲に武運長久祈願祭を執行下され、且寫眞まで御送り下さいまして誠に有難く感激に堪へません。御說の樣に聖戰滿二年餘愈々兩國の基も固くなつてまいりました。私達が來た頃と比べると、全く治安もよくなり又敵の裝備も劣へて天地の差です。戰地も歐洲大戰が初まりましたのに異狀な希望がつながれてゐます。話に聞くに、生絲も千五百圓とか云ひます由、驚きの外ありません。當地は冬服の欲しい時となりました。もうすぐ氷の世界となつてまいります。御地は今が健康增進の秋、折角御自愛專一の程を祈ります。御序を以て皆樣によろしく御傳へ下さい。

（九月十三日）（校長宛）

岩切中尉より

時下初秋の候校長先生には大元氣にて御消光のことゝ察し上げ候。陳者先日は慰問狀並に寫眞御送り下され有難く御禮申上候。御蔭樣にて小生も軍務に精勵致し居り候間他事乍ら御放念下され度候。先は亂筆御禮まで。

（校長宛）

訃報

宮坂正彥氏逝去

元德島縣立農業學校教諭　宮坂正彥氏（齡二一）は一昨年から糖尿病の爲、自宅に靜養加療に努められてゐたが藥石効無く九月十日遂に永眠された旨德島支會から通知があつた。謹みて哀悼の意を表する次第である。

平山俊夫氏逝去

元滿鐵熊岳城農事試驗場に勤務されてゐた平山俊夫氏（絲一九）は昨年病の爲に退職され鄕里熊本に療養に努められてゐたが藥石効無く九月廿五日遂に永眠された。謹みて哀悼の意を表する次第である。

副田好美氏戰死

昨年母校副手から鄕里の修猷館中學校教諭に榮轉された副田好美氏（絲二一）は間もなく○月應召となり步兵少尉として北支に奮鬪、最近滿蒙國境に轉戰と聞いてゐたが九月三十日御殿父樣並に岡村源一氏（絲六）より名譽の戰死をされた旨通知があつた。謹みて弔意を表する次第である。

弔慰金募集

故深美　政人氏（絲廿四）
故宮坂　正彥氏（齡二一）
故副田　好美氏（絲廿一）
故平山　俊夫氏（絲十九）

以上四氏に對し弔慰金を募集致します。故宮坂氏は十一月末日、故副田氏故平山氏は十二月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致したいと思ひますから夫れに間に合ふ樣振替口座東京四三三四一番へ故人に對する弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。

昭和十四年十月

千曲會

弔慰金報告

故大名　昇氏弔慰金報告
金五圓也　佐谷戶健次郎　菅原　勇治
依田　信一
金參圓也　菅澤　隆三
金貳圓也　玉木　勝彰　今井　又藏
鈴木　誠一
右合計金貳拾四圓也
累計金參拾八圓也
故竹村中和氏弔慰金追加分
金五圓也　川船　卓爾

宮坂さんを憶ふ

香桑園

「山青く山白くして雲去來す。人樂み人愁ふ。之皆世上の有樣なり」

謠曲觀世を愛し、就中「熊野」を得意とされた宮坂さんは、旁頭熊野の一句の如く行年四十九歳を最後として德島眉山麓下の寓居にて忽然として逝去された事は洵に惜みて餘りある次第です。

宮坂さんは大正七年七月に齢二十八、九歳頃新進教師として幾多の望を前途に抱き縣立農業學校に赴任されたのです。學齢二十星霜を同校に在て忠實、精勵し去る十一年頃には奏任教頭（教務主任）に累進され慥、去る十二年六月中旬頃同校の校風作興計劃の激務は精神肉體兩方面に過勞を加重し、糖尿病を誘發されたのではないかと想起さるゝ點が多分にありました。早速市内若林病院（當市一流）にて約一ケ月餘周到なる加療の結果、一時小康を喞られたので校務に就かれたので恢復は思しからず終に昨十三年七月退職の止むなきに至つたのである。爾來病氣は一進一退遲々として思はしからず昨夏、上原さんと野生と病氣御見舞に御邪魔したときは玄關先でいつもの笑顔を拜見したい程であつたのに、去る九月十日午後○時に逝去の訃音に接したので同日の告別式に御伺したのでした。「是德院文教正彥居士」の靈前に額づくや、ありし昔の事共、とりとめなくこみあげ、暗涙を覺へたのでした。未亡人ツルエさまの背後には五子あり、幾山河越路の我身に萬歳を覺へ、記憶ある同氏を巡ぐる二―三の事共を摘錄して見ませう。

◎その一　二十餘年の阿波路の生活に同氏と最も印象づけらるゝは、昔勤務された二、三、倉澤美、坂田、菅澤の諸先輩だらふ。何れも酒盃に緣ある人々であるから（これは利の想像）隨分色々の話を聞いたものです。全くうらやましい程の交游であつたので、その純情美は敬服してゐます。さぞ訃報を聞いた方々は驚愕さるゝ事と思ひます。

◎その二　非常に溫厚で、怒ることを知らず、いつもニコ〳〵しながら、如何なる痛苦も隱忍して、顏に表現されなかつた君は學校關係の諸先生及生徒諸君よりよく承つた程、信用厚く、又校友會の經理部長は就かれ、色々煩雜な處理にあたられたと云ふ事、寔に隱德と云ふべきであらふ。

◎その三　非常に世話ずきであつて、前櫻井校長（現在岐阜高農教授）令妹治子さん及び田口清一君（上田母校卒業生）の愛妻媒妁等仲々粹なところや、又同窓生生天目君、秋山君の赴任に際して、人並ならぬ世話された事は誠に人情味、豊かであつた。

◎その四　氏は子福者で、次の三男二女あり。

長男　和美君（十七歳）德島商業校　四年生
長女　美惠子さん（十六歳）（目下卿里信州諏訪郡豊平村に於て老母と同居中）
次男　博厚君（十四歳）德島工業校　二年生
次女　厚子さん（九歳）小學三年生
三男　和信君（五歳）

前途多端なるのは、御同情に堪へない。

追　想

私は宮坂さんから常に謠を勧められた又靜的趣味の生花講話を拜聽し、教化生活に餘情を副へる幾多の行路活教訓なることと物語れた事が思ひ出される。發病間際は實に激務で朝は七時より夜九時頃終日終夜校務刷新に邁進し好きな謠や花も忘れる迄に奮闘されたと、然しその反面某農學校長に推薦されてをられたと云ふ事であつた。この奮闘、精進は來るべき校長の貳金石であつたのではないか。克く戰ひぬいた人生を最後の榮冠を得ることなく、寂しく墓石に逝かれた事は返すがへすも萬斛の涙を覺へずにはいられない。千曲の靜流に培つた教育界の偉大な人物もかくて去り逝くとは。

君は長男に生れ遺く異境にて幾多の子女の爲教育も完成せず剩へ病の爲に充分なる貯へも用意なきものと思はる。五氏を中に細き腕に寄りすがられつゝ、雄々しくも御苦勞さる、未亡人の心中、御察するに亦餘りある次第です。

近く來りなん四十九日（十月末日）には故郷諏訪にて心淋しくもまたるゝ老母の下に歸り本葬の豫定と聞く。

冀くば同地方の各兄よ、御燒香あらむ事を。（天野生）

副田君の英靈に捧ぐ

荻原生

九月三十日副田好美君（製絲二十一回卒）の御尊父から同君のノモンハン戰闘に於ける戰死が報ぜられた。我々は只愕然として爲す所も知らず目頭の熱するをおぼへ頭の下るのを禁じ得なかつた。戰死當時の狀況に就て詳報はわからないが日頃君の人格を知るものは其の戰死が定めし武人の模範となる樣は花々しきものであつただらうことを想像して貴き興亞の礎石となられた副田君の英靈に對して心からなる感謝を捧げると共に哀悼の意を表するものである。陸軍情報部からの發表によれば去る五月事變發生以來停戰協定の成立迄五ケ月間に皇軍の被つた損害は實に○○名と云はれる其れから見ても同方面の戰闘が如何に激烈なる繼續であつたかが何はれるのである。張鼓峰の一を誇を樣械化部隊を總動員して然かも其の活躍に最も好都合な一望千里のホロンバイル平原を選んだことも肯かれるが其れだけに我が軍の苦戰の程が察せられる。遮蔽物一つない平原に優秀なる機械化部隊を總動員して然かも我に數倍も十數倍もする敵の攻擊を受けては其の苦戰の程が察せられる。

同國境方面にも多數の同窓生が皇國のために其れ〳〵重要任務に服してゐるが副田君は其の方面に於ける同窓生最初の犠牲であることが我々の臍裏に强く印象される又其れだけに痛惜の念が深い。福岡縣繭檢定所長岡村源一氏から校長先生への通信によれば副君が愈々第一線に出動することが決定した直前御尊父に書き送られた信書には遺書と共に万一の場合の葬式のことも細々と綴られ鄕黨を感激させたとのこと、斯樣なことは日本武人の誰れしもが、行ふであらうが其の一事を以てしても副田君が出動前に既に覺悟を心中に潜めてゐたことが伺はれ其の當時の心中を憶ひ貴き心意氣に只感謝感激の外はない。

副田君は昭和八年製絲科を卒へ直ちに化學部の副手として研究に從ひ翌年兵服に服し幾多同僚を拔いて將校となつたのである。次いで除隊後は製絲科に副手として勤務し林教授の研究を援け製絲部門に於ける化學的方面の研究に專心したのである。其の間に於ける君の人格は寡默勤勉にして人に親しまれ目的に向つては如何なることも達成せずには置かないと云ふ性質であつた。副田君は趣味として寫眞をやり製絲科に於ける唯一人（當時）のカメラアマチュアーとして科内の寫眞を一手に引受けてゐた。出征後某地に於て多年念願してゐたローライコードとか云ふカメラを求め漸く意張つて撮影が出來る樣になつたから除隊後が樂しみだと言つてゐた。但し今は軍の秘密で撮したものも送ることが出來ないからとも言つて寄越したこんな所にも君の責任感の强さが感ぜられる。其の喜びも今は全く無駄となり愛翫のカメラが今は無き君の軍用行李の奥深く殘されて君ありし日の思出の品となつて淋しく物語つてゐることであらう。又君は運動もやり中學時代にはラグビーのチャンであり學校に入つてからは製絲に於ける名スプリンターとして對科レースには無くてはならぬ存在であり、製絲科のために常に万丈の氣を吐いてゐたことは等しく知る所である。其の後家庭の都合で一旦鄕里に歸つたが間もなく（昭和十三年四月）母校修猷館中學で教鞭をとつてゐたが、滿洲國に要職を得て勇躍出發すべく母校に挨拶旁々來訪中に御召しにあづかり目的こそ異なれ大陸の某地へと就職ならぬ征途に上つたのである。彼の地に於ては嚴寒零下六十度を下る○○に於て測量偵察等の作戰任務に從事し、式は又泥水沸る炎天に悪疫と戰いつゝ○○を監視して過すこと半歳遂は今次の國境大事變となつたのであるが同君等皇軍將士の此の目に見えぬ苦心の準備が此の度の大戰果をもたらしたものと信じ其の當時の第一線にも增した辛苦を思ふ時何んな言葉を以てしても感謝し盡せないのである。又除隊後に多いに活躍させやうとしたカメラが此の任務に役立つたことは論を待たないことであらう。副田君の手にされることが極めて短かゝつたカメラも以て冥すべきである。

此の世に生を受けて三十年副田君の生涯は短かつた。然し其の間自已の進むべき所に向つて突進した君の業績は他の人の五十年にも百年にも當るだらう。更に最後を飾る花々しき戰死は日本帝國のあらん限り千代に八千代に護國の神として敬はれる君となつたのである。

今や同方面の戰雲も全く治り興亞の大業も着々と其の緒に就きつゝある時、君の死は惜しみても尙餘りあるが其の貴き犠牲に對しては心からなる感謝を捧げると共に今後は永く靖國の社奥深く神鎭りて護國の神として御皇國を御守り下さる樣御祈りする次第である。尙同家では次弟滋氏も見習士官として東滿方面に活躍中とか、御子息二人迄も御國のために捧げておられる副田君御尊父樣に對しては心からの御慰問の御言葉を捧げると共に御一家の幾久しく榮えんことを御祈りして此の拙き一文を副田好義君の御靈に捧げる次第である。（一四、一〇、六）

副田君を憶ふ

I　生

信濃の高原にも漸く秋風吹き初めし十月も初め副田兄名譽の戰死をされし旨の報に接し愕然とす。

ソ滿國境に暗雲低迷し、兄そこに奮戰して既に一年有餘、其の間幾多の辛苦、艱難は兄と共にあつたことであらう。そして又武勳の赫々たるものゝあつたことも疑ひを入れぬ所である。

一度戰場におもむくとき生還を期せざるは男子の常とする所なるも、聖戰も未だ半ばにして又雄志空しく座折せし兄の心中を思ふとき轉た感慨の無量なるものあるのみ。然し兄の尊い遺業は東亞の平和確立の礎として永遠に輝くであらう。

唯至高なる人格と優秀なる技術とを有せし兄の早逝は追惜置く能はざる所である。

兄は學生時代には柔道部に籍を置きマネヂヤーとして活躍し、そして又第一線に選手諸兄と共に奮闘し部の爲に全力を盡されたことは周知のことである。

當時松高に連敗を重ねて居つた柔道部も今は故人となられた喜多尾三段が大將になられたとき永年のうらみを舞らし大勝を博し輝やかしい第一員を飾つたのだつた。その後を受けてマネヂヤーとして柔道部を背負つた兄も並大抵のことではなかつたことゝ思ふ。部員も少なかつたので兄自ら第一線に立ち對校試合にも重鎭として戰はねばならなかつた。

今校友會法をひもとくとき在りし日の兄の奮闘振りは强い印象としてそれは宛も昨日の出來事の如く頭の中を往來してくる。

『敵軍の大將に配するに副田初段、敵戰に涙して立ちしT初段の働きぶりは美事の極みなり、しかれど實の實力にては如何にせん副田の終始の擊攻にようく引分に終る』

これは東鑑との試合の狀況である。即ち前半に於て我が部は勝ち越してきたのではからずも中堅副田兄と敵軍大將とが顏を合せたのだつた。

そして又松校との對戰に於ても副田兄は中堅に出で敵は巨體にして實力三段は敵味方共にゆるして居りし强豪だつた。その試合に關しては次の如く書かれてある。

『敵は六尺近くの長身我が副田最初より難戰を豫想せられしが副田よく戰ひて背負投に敵の長身も危く見えしがよく頑張り寢業に移りしも遂に引分け』

如何に奮闘せられたか、右の二文を見ても兄の面目躍如たるものがある。

あゝ副田兄今は無し。

其の人格と才は將來囑目されて居りし兄

幾春秋を殘して逝かねばならなかつた兄の胸中は如何ばかりだらう。

然し兄の死こそ祖國の礎なのだ。

尊い護國の柱として日本人としての最高の名譽を捷得たのだ。

冥せよ、兄の英靈よ

『ノモンハンに初雪が降りました……』

二、三日前のラヂオはニュースの時間に報じて居つた。

兄の最後の地ノモンハンには既に冬が訪れたのであらう。そして兄等奮戰の跡は宛ら武勳を讃へるに適はしく美しき銀一色を以て彩られたのであらう。

（十月七日）

會員動靜

（十月五日現在）

片岡　綾雄（現職）（勤）東安省公署實業廳殖產科
西入　堅二（現職）（住）東京市芝區田村町四ノ一八松浦方
玉井　寛次（現職）應召
宮坂　正彥（蠶二）昭和一四年九月一〇日死亡
久保田正樹（蠶三）（勤）上田市、長野縣蠶業試驗場（兼）長野市、長野縣蠶業試驗場
梶田　廣貞（蠶七）（勤）愛媛縣宇摩郡小富士村、愛媛縣立宇摩實業學校（住）小富士村
宮崎　清治（蠶八）（勤）天津伊太利租界五馬路、裕興公司、電話四、九八一・四、〇九八二・四、〇九八六・四、〇九九八（住）天津日本租界住吉街一ノ一九　電二、〇七六三
北澤　周一（蠶一〇）（勤）福島縣田村郡小野新町、福島縣蠶業試驗場支場（住）小野新町仲町（舊、岐阜支會）
岩根　謙（蠶一一）（勤）群馬縣蠶業試驗場沼田支場（住）沼田町馬喰町一二四
中山　吉二（蠶一二）（勤）鹿兒島縣日置郡東市來町、鹿兒島縣蠶業試驗場（住）東京市來町湯之元
安喰　定治（蠶一七）（勤）福島縣伊達郡梁川町、福島縣蠶業試驗場（舊、宮城支會）
若林　榮（蠶一九）（勤）宮城縣是共榮蠶絲株式會社仙南工場蠶業課（住）宮城縣白石町大字白石町大字白石字兎作
池內　眞吾（蠶一九）（勤）滿洲國奉天省西豐縣、國立柞蠶種繭場
杉浦　卓三（蠶二〇）應召（留守宅）愛知縣碧海郡刈谷町熊、杉浦又右衛門方杉浦鈴子
清水　傳（蠶二三）應召先變更
香山　護（蠶二三）應召
菱田　政二（蠶二三）應召
渡邊　善次（蠶二三）應召
加藤　沼二（蠶二三）（勤）宮城縣柴田郡大河原町、柴田農林學校
秋山　利夫（蠶二四）召集解除（勤）本校養蠶科植物學教室（住）上田市北大手町金子梓郎方
矢野　進（蠶二五）（住）札幌市外琴似村、市立札幌療養所二三號
市川　信二（蠶二五）應召
都筑　正一（蠶二五）應召
矢田部忠吉（絲二）（勤）中支
加美　好男（絲三）（住）神戸市灘區山田町一ノ二〇電話御影二五八〇
高木　三治（絲三）（勤）有限責任長野縣生絲共同施設組合（勤務先改稱）
森田　三郎（絲四）（勤）仝右
伊藤　清（絲五）（勤）仝右
小笠原精三（絲八）（勤）滋賀縣八日市町、保證責任近江蠶業販賣購買組合製絲部
富田　乙松（絲八）（勤）朝鮮江原道、江陵警察署（住）仝上署長官舍
小山　清（絲一一）召集解除（住）前橋市榮町二一
石原　六朗（絲一一）〇月〇〇〇日召集解除（勤）横濱市中區山下町八一、コーンス、エンド、コンパニー（住）横濱市中區本牧町四ノ九六室
神戸　敏夫（絲一二）召集解除（住）豐橋市向山大池町一〇八
岩根　恒德（絲一三）應召
佐野忠二郎（絲一五）（勤）滿洲國立安東柞蠶絲檢查所（舊、兵庫支會）
鈴木　玄九（絲一八）（勤）熊本縣菊池郡隈府町、鐘紡菊池工場（住）隈府町字切明（舊、朝鮮支會）
大平　正三（絲一八）（勤）本校製絲科（住）上田市櫻木町佐渡屋方（舊、龍川支會）
高松　珍夫（絲一八）應召
西尾　重郎（絲一八）應召
桐原　達郎（絲一八）召集解除（住）長野縣東筑摩郡入山邊村桐原
平山　俊夫（絲一九）九月二十五日死亡
田上　忠義（絲二〇）（勤）奉天市葵町アパート二階一一號、滿洲柞蠶株式會社奉天支店假事務所
益淵　誠正（絲二一）（勤）安東省公署實業廳殖產科（住）安東市六番通八ノ四
市原　文雄（絲二一）（勤）本校製絲科（住）上田市常入町（舊、栃木支會）
副田　好美（絲二一）八月中ノモンハンに於て戰死
小井土英二（絲二一）（勤）福井縣繭檢定所、福井市石場畑方
土屋　安治（絲二二）九月一四日東京第二陸軍病院ヲ退院（住）長野縣南佐久郡切原村
岡田　重一（絲二二）應召
神崎　隅一（絲二三）（住）小倉市北方陸軍病院新東貳病棟八號室
小泉　辰雄（絲二四）（勤）所屬部隊變更
東鼻藤次郎（絲二四）所屬部隊變更
有賀　正治（絲二五）應召
阿部　豊（絲二六）（勤）東京市麴町區有樂町一ノ七、日本中央蠶絲會（住）東京市小石川區小日向水道町四七大室方（舊、東京支會）
河西　尙一（紡二）（勤）大阪市西區新町通一ノ一四、鐵工業會館、合養會社日本紡織研究所、電話新町一、一八五・三、七七〇
石井　久雄（紡二）召集解除
平田　清親（紡五）（勤）臺北工業學校（臺北市）（住）臺北市宮前町三九一
藤井富美男（紡八）（勤）郡山市外富久山町、日本紡績富久山工場（住）仝上社宅
柳澤　信義（紡一〇）（勤）所屬部隊變更
淺山　茂樹（紡一七）應召
白鳥　竹和（紡一七）應召
小林　龍太（紡一七）所屬部隊變更
伊藤　幸枝（舊、教）（勤）橘館製絲會社ヲ退職（住）上田市馬場町四、三二八
西原　藤（教三）（勤）福井市石場畑方、福井縣繭檢定所（住）仝上（舊、兵庫支會）
深町　てる（教五）（勤）ナシ（住）ナシ
原　みつ子（教六）（勤）ナシ（住）長野縣小縣郡鹽尻村字鹽尻
追　加
小林　輝一（蠶四）（勤）前橋市外元總社村、群馬縣蠶業試驗場總社支場（住）前橋市紅雲町一一
小山田啓三（蠶六）（勤）松岡製絲場、同養蠶場、山形縣鶴岡市大海町（住）山形市地藏町六二
山本三六郎（蠶一〇）（勤）愛知縣中島郡祖父江町、富國人絹化學研究所、電話祖父江二
井澤　喜三（蠶一六）（勤）上田市、長野縣蠶業試驗場上田支場
田口　亮平（蠶一七）（勤）福岡縣經濟部蠶絲課（住）福岡市外多々良村名島二、二、九二
秋山　俊雄（蠶二一）（勤）德島市鮎喰町、德島縣立農業學校
本居　高行（蠶二四）（勤）東京市城東區龜戶町、東洋紡績織工業龜戶工場試驗室
北原　幸治（蠶二六）（住）長野縣埴科郡杭瀨下村大字新田四三七
齋藤　重利（蠶二六）（住）山梨縣中巨摩郡龍王村
山田東洋男（蠶二六）（住）大阪府豐能郡南豐島村原田一、二六三
內田　幸成（絲一六）（勤）從前通リ（住）山口市、湯田町大正通リ
小菅　貞三（絲二三）（勤）山口市、山口縣蠶農務課（住）山口市上立小路、藤村旅館
金丸　八郎（絲二五）（勤）熊本縣玉名郡高瀨町、肥後製絲玉名工場
藤井爲五郎（紡一三）（住）上田市、鷹匠町阿形方（但シ病氣靜養中通信先）
岩崎　正典（紡一六）（勤）長野縣南安曇郡豐科町、豐科紡績豐科工場（住）仝上

編輯室より

△忙はしさに追はれてゐると何時の間にか秋だつた、燈火親しむ候も、髯かに讀書と言ふ具合にもゆかず、まあ病氣もせずに、溯次仕事を片付けて行ければ良い方だ。

△思ひ出深いであらう運動會も追つて校內は潑剌たる意氣と熱と鬪志と鍛練ではりきつてゐる。

△我が柔道部の全國制覇は母校の名譽を擧げたること大にして、各地の同窓各位の聲援も多かつた丈に、校內外の歡喜は非常なものだつた。

廣告規定

寸法／期間	一ケ月	六ケ月	一ケ年
一頁	一五、〇〇円	七五、〇〇円	二五〇、〇〇円
1/2頁	八、〇〇	四五、〇〇	一五〇、〇〇
1/4頁	五、〇〇	二七、〇〇	八〇、〇〇
1/10頁	三、〇〇	一〇、〇〇	三五、〇〇
1/20頁	二、〇〇	一三、〇〇	一四、〇〇
1/40頁	一、〇〇	八、〇〇	一五、〇〇

但し本會員は七掛とし、尙詳細は御照會下されば御回答申上げます。

優良蠶種案內

◎昭和十五年度春蠶種
×分離白一號　滿月系　絲質特優
×滿龍華　浙江仙　絲量最多　太並ニ細兩種
◎昭和十四年度初秋晚秋蠶種（冷浸並ニ卽浸）
×滿分離白一號系
×滿分離白二號系
×滿月系
×日支一一月二〇系
×浙龍華江仙

（優良品種……適地分場）

右各原種分讓の御相談に應ず。

廣島縣御調郡奧村綾目八七六

蠶種業　小川保

電話市村局十一番（甲本宅）
（乙蠶種部）
振替　廣島二四六番
大阪二〇七六三番

電報市村局別使配達料不要